

上野原ひまわりクラブ会誌

むるがや

第39号

令和4年
3月31日発行

いきいき山梨ねんりんピック2021「山梨県シルバー作品展」工芸部門 優秀賞



作品名「すてる紙あればひろう紙あり（エコ絵画）」

大目豊明会 久保鈴江

巻頭言

上野原ひまわりクラブ会長 杉本 茂

この度、上野原ひまわりクラブ会長に選任されました、杉本 茂と申します。浅学非才にしてその器では無いと自負しておりますが、頑張つて行きたいと思っておりますので、何卒会員皆様の温かいご指導、ご協力の程、心よりお願い申し上げます。さて、全国的に会員の増強が言われている中、私たちのクラブも遅れを取らないようにと思ひ、今年度より上野原ひまわりクラブと改名し、これからと言うときに、新型コロナウイルス感染症により、年度前半の八月までは、思うように事業も出来ませんでした。しかし、まん延防止が解けた九月以降は、コロナも少し落ち着いてきた事もあり、計画した教室も会員皆様の協力により、密閉、密集、密接の三密を守りながら、竹細工教室、シナプソロジー教室、グラウンドゴルフ教室を行うことが出来ました。

竹細工教室は、戸崎祐治先生の指導により、体験コース四回、切出しコース全四日間で行い、会員以外の人の参加もあり、好評のうちに行うことが出来ました。

シナプソロジー教室は、お気軽フィットネス、浜田純一先生の指導の下、面白くためになりそうだと、楽しく出来ました。グラウンドゴルフ教室は何年も行っているのですが、参加者が皆で準備をしたり、片付けをしたりと自主的に協力をしながら出来、ひまわりクラブ全員が力を合わせて運営できるようになり、本当にありがとうございます。これからも人生一〇〇年皆で健康で頑張りましょう。

最後になりましたが、この度の「むろがや三十九号」の編集にあたり、多くの原稿をいただき、また編集委員の皆様、大変ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

六十五歳以上の高齢者人口は年々増加しているにもかかわらず、老人クラブ加入者は減少しています。理由のひとつとして、「老人」という名前に抵抗があり、加入しないことも理由の一つとなっています。全国的に「老人」を使わない名称に変更の動きが各市町村老連で相次いでいる現状にあります。

上野原市におきましても、令和三年四月一日付で「上野原市老人クラブ連合会」から「上野原ひまわりクラブ」に名称変更を行いました。明るい花と元気いっばいであること。太陽に向かってひまわりは元気よく咲いていることから、それぞれの活動に参加して会話することで活力にもなり、健やかに過ごしていけたらいいと願いがこめられています。

巻頭言	上野原ひまわりクラブ	会長	杉本茂	1
老人憲章・長寿やまなし県民憲章				4
令和三年度上野原ひまわりクラブ各单位クラブ会長・女性委員名簿				5
令和三年度上野原ひまわりクラブ事業報告				6

活動報告

島田グラウンド・ゴルフ(桂会)と私	島田桂生会	市川武士	8
島田東区グラウンド・ゴルフ前史	島田桂生会	井本克二	8
クラブ紹介	本一寿楽会	細田和幸	10
単位クラブから寄せられた活動の様子			10

随筆

昭和の頃	新井陽亀会	奈良俊治	14
記憶の中の匂い	新井陽亀会	水越茂子	15
晩秋譜	小沢寿会	森川耀雄	15
朗読事始めの記	原明朗会	長坂裕子	16
母への思い	秋山高齢者クラブ	関戸明子	17
人生三つの後悔	四方津シニアクラブ	斉田ミマコ	18
書の表現	田町寿会	水越久	19
ぞつとした事	コモアシニアクラブ	田中醇治	20
東京タワーを創った男	コモアシニアクラブ	中沢敏敦	21
「八米」に思う	八米泉会	村上敏子	23
「太い箸」	西原なかよし会	長田助成	24
生きる力	沢松親和会	小俣キヌ子	25
玉木愛子の歩んだ道	沢松親和会	小俣庄三	25
上野原賛歌―その1「リバーテラスの田園都市」上野原にダブルレインボウが出た!	新三すこやか会	谷口文朗	27

研究

日本、花の文化小史「三」	塚場長寿会	諸角弘	30
村の暮らし――松留	沢松親和会	大神田ふみ子	31
斑鳩散策	沢松親和会	井上肇	34

創作

サリ―物語 第2章 君の名は
「食べ物について思うこと」

原明朗会
沢松親和会

長坂幸夫
市川幸子

俳句

コモアシニアクラブ

コモアシニアクラブ

廣井勝美

コモアシニアクラブ

コモアシニアクラブ

佐藤櫻子

コモアシニアクラブ

コモアシニアクラブ

長屋勲

コモアシニアクラブ

コモアシニアクラブ

今屋友子

コモアシニアクラブ

コモアシニアクラブ

金子久雄

コモアシニアクラブ

コモアシニアクラブ

山本婕子

新一青老会

新一青老会

鈴木千子

新一青老会

新一青老会

安藤美津江

新一青老会

新一青老会

土屋澄子

新一青老会

新一青老会

鈴木千子

新一青老会

新一青老会

山本婕子

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

山本婕子

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

金子久雄

元氣やまなし10か条

本一寿楽会

黒川良人

詩

本一寿楽会

黒川良人

短歌

本一亀寿の会

波多野千江子

川柳

本一亀寿の会

田中醇治

島田桂生会

小島政美

三島政美

新井陽亀会

大月佐江子

小島政美

八米泉会

甲東きずな会

遠藤一子

甲東きずな会

甲東きずな会

山崎宣子

沢松親和会

甲東きずな会

戸田成子

沢松親和会

甲東きずな会

和智千代子

沢松親和会

甲東きずな会

尾形彩乃

沢松親和会

甲東きずな会

尾形富美子

沢松親和会

甲東きずな会

尾形富美子

新一青老会

新一青老会

小俣キヌ子

新一青老会

新一青老会

中村悦子

新一青老会

新一青老会

安藤美津江

新一青老会

新一青老会

土屋澄子

新一青老会

新一青老会

鈴木千子

新一青老会

新一青老会

山本婕子

新一青老会

新一青老会

金子久雄

新一青老会

新一青老会

今屋友子

新一青老会

新一青老会

長屋勲

新一青老会

新一青老会

佐藤櫻子

新一青老会

新一青老会

廣井勝美

老人憲章

- 一、すべての老人は、晩年を健康で、平和な生活が保障され道義的、経済的条件が満たされなければならない。
- 一、すべての老人は、常に修養を怠らず、新時代に適應する老人道を打立てなければならない。
- 一、すべての老人は、自己の生活設計をたて、その能力に応じた奉仕活動を続けなければならない。
- 一、すべての老人は、敬愛される寛容な態度をもって、家族隣人との融和を図らなければならない。
- 一、すべての老人は、相互に慰めあい、励ましあい、楽しい日常生活をおくることを心がけねばならない。

昭和四十四年九月十六日

社団法人 全国老人クラブ連合会制定

ともに生きともに支える

長寿やまなし県民憲章

明るく活力ある「長寿やまなし」を築くため わたくしたちは

- 一、心身の健康づくりにつとめます
- 一、生涯にわたり学習にはげみます
- 一、あたたかい家庭をつくります
- 一、持てる力を社会のためにいかします
- 一、豊かな文化の創造につとめます
- 一、自然を愛し、やすらぎのあるふるさとをつくります

令和三年度 上野原ひまわりクラブ 各単位クラブ会長・女性委員名簿

上野原ひまわりクラブ役員

会 長	杉本 茂
副 会 長	川口 盛雄
副 会 長	秦野 勝利
副 会 長	山崎 悠

上野原ひまわりクラブ女性委員会役員

委 員 長	市川 幸子
副 委 員 長	水越 茂子
副 委 員 長	今 友子

上野原ひまわりクラブ単位クラブ会長

NO	クラブ名	氏 名
1	大目豊明会	岡部 正子
2	甲東きずな会	小澤 宗道
3	コモアシニアクラブ	川口 盛雄
4	沢松親和会	井上 肇
5	四方津シニアクラブ	岡本 房雄
6	大鶴老人クラブ鶴寿会	小山 岩夫
7	島田桂生会	井本 克二
8	桐原明老会	秦野 勝利
9	西原なかよし会	宇津木富茂
10	秋山高齢者クラブ	杉本 茂
11	諏訪悠々会	佐藤 通則
12	塚場長寿会	古家 保
13	新一青老会	石塚 英一
14	新二鶴友会	清水 正
15	新三すこやか会	清水 祥
16	本一寿楽会	細田 和幸
17	本二亀寿の会	江口 忠勝
18	本三ほがらか会	山崎 悠
19	原明朗会	長坂 幸夫
20	新田倉同心会	佐藤 勇
21	田町寿クラブ	加藤 昭夫
22	小沢寿会	加藤 欽弥
23	にしばら錦会	横瀬 礼子
24	新井陽亀会	尾形伸太郎
25	向風八幡会	石井 光雄
26	八米泉会	山崎 宣子
27	山風呂老人会	佐藤 好文

上野原ひまわりクラブ女性委員

NO	クラブ名	氏 名
1	大目豊明会	安藤 佑子
2	甲東きずな会	和智千代子
3	コモアシニアクラブ	今 友子
4	沢松親和会	市川 幸子
5	四方津シニアクラブ	岡本 年江
6	島田桂生会	吉村チヨ子
7	桐原明老会	鷹取 賢子
8	西原なかよし会	船木とめ子
9	秋山高齢者クラブ	志村なみ子
10		原田 英子
11	諏訪悠々会	金子 節子
12	塚場長寿会	渡邊みえ子
13	新一青老会	東山佳津子
14	新二鶴友会	大竹 笑子
15	本一寿楽会	宮下小枝子
16	本二亀寿の会	守屋多美子
17	本三ほがらか会	杉本 文江
18	原明朗会	長坂 裕子
19	田町寿クラブ	鈴木 香
20	にしばら錦会	横瀬芙佐子
21	新井陽亀会	水越 茂子
22	向風八幡会	矢島 栄枝
23	八米泉会	久田 政子

令和三年度 上野原ひまわりクラブ事業報告

月	日	事業名	会場	備考
---	---	-----	----	----

令和3年

4月	9日(金)	会計監査	市総合福祉センターふじみ	監事2名
5月		理事会・総会		書面決議にて議決
6月	11日(金)～ 14日(月)	山梨県シルバー作品展 (一般公開は中止)	山梨県立図書館	久保鈴江(工芸)優秀賞、土屋正(工芸)銀賞、行田敏夫(写真)銀賞、藤田洋治(洋画)銀賞、井上和子(書)努力賞、佐藤公子(書)、阿部勝男(写真)、秦伸一郎(写真)
7月	1日(水)	富士の国シニア山梨だより 夏号発行		
	9日(金)	市町村老連リーダー研修会(郡内)	びゅあ富士	会長、事務局3名参加
	14日(水)	第6回上野原ひまわりクラブ グラウンド・ゴルフ大会	桂川野球場	18チーム・90名参加 優勝:コモアA 準優勝:島田桂会A 3位:島田桂会B
8月				
9月	10日(金)	第60回山梨県老人福祉大会 (式典中止)		石塚英一さん(新一青老会)県知事表彰、市川武士一さん(島田桂生会)県老連会長表彰
	13日(月)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員6名出席
10月	1日(木)	富士の国シニア山梨だより 秋号発行		
11月	10日(水)	県老連グラウンド・ゴルフ大会	小瀬JITリサイクルインクスタジアム	出場チーム:コモアA、島田桂生会A
	25日(木)	第7回上野原ひまわりクラブ グラウンド・ゴルフ大会(個人戦)	桂川野球場	12単位クラブより107名参加 優勝:宮田憲次(島田桂生会) 準優勝:稲垣恵子(コモアシニアクラブ) 3位:市川武士(島田桂生会)
12月	20日(月)	口腔ケア研修会	市総合福祉センターふじみ	23名参加
	23日(木)	市町村老連健康づくりリーダー研修会 (郡内)	びゅあ富士	3名・事務局1名参加
		むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員7名出席

令和4年

1月	15日(土)	富士の国シニア山梨だより 新春号発行		
	20日(木)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員6名出席
	21日(金)	上野原ひまわりクラブ表彰審査会	市総合福祉センターふじみ	表彰者30名・1団体を表彰
2月	25日(金)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員7名出席
3月	2日(水)～ 4日(金)	東部地域高齢者作品展(中止)	都留市まちづくり交流センター	14作品出品
	31日(木)	会誌 むろがや 第39号発行	発行部数1,900冊	

- 「健康づくり事業」 グラウンド・ゴルフ教室…全7回実施(6月・7月・9月・10月・11月の月2回 水曜日9:00～正午・桂川球場)延べ448名参加
- 「老人クラブへの加入促進事業」 竹細工教室…切出しコース全4回2教室実施(10月・11月)延べ54名参加、体験コース全1回3教室実施(12月)延べ17名参加
- 「介護予防事業」 シナプソロジー教室…全6回実施(10月・11月・12月・1月に大目・秋山・島田・上野原・桐原の地域施設を使用)延べ58名参加

「新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの事業が中止となりました。」

中止事業: 3市村ゲートボール大会、山梨県老人福祉大会・高齢者友愛実践活動研修会、いきいき山梨ねんりんピック2021、上野原ひまわりクラブ役員研修、市町村老連女性リーダー研修会、市町村老連活動発表会、市社会福祉大会、認知症サポート養成講座(地域支え合い事業)



「第6回グラウンド・ゴルフ大会」開会式
 コロナ禍での開催。感染症対策として密回避のため
 整列をせずに行いました。



グラウンド・ゴルフ教室
 6月30日今年度の教室の初日。写真を撮る時だけマ
 スクを外してパチリ。参加者で感染症対策を講じなが
 ら運営・実施しました。



県老連グラウンド・ゴルフ大会
 予選会を勝ち抜いたコモアシニアクラブと島田桂生
 会の2チームが参加しました。



竹細工教室 切出しコース
 会員外の方にも参加して頂き、秋山老人福祉セン
 ターにて実施しました。



「第7回グラウンド・ゴルフ大会」開会式
 毎年秋に3市村交流グラウンド・ゴルフ大会を開催し
 ています。コロナ禍のため今年度はひまわりクラブ
 だけの実施となりました。令和3年度の練習成果を
 締めくくる大会です。



口腔ケア研修会
 健康長寿にはプロによる定期的なお手入れがとても
 大切であることを勉強しました。

シナプソロジー教室

2つのこと(声を出しながら動作を行う等)を同時に行いながら、
 脳を混乱させ、脳を活性化することを目的に、座ったままでも行
 える認知症予防にも効果があると言われている体操です。



島田グラウンド・ゴルフ(桂会)と私

島田桂生会 市川武士

グラウンドを通じて相互の親睦を深めるためと、高齢者の健康づくりが一番適しているのがグラウンド・ゴルフだと思います。他の地域の皆さんとプレーを通じて交流を深めております。毎週火曜日と金曜日に市営野球場を借り芝の部分にコースを作って練習しています。朝八時四十分には役場の方がゲイトを開けてくれます。会員の皆さんもコースをつくり、暑さ除けにテントを張り、受付用テーブルをセットする。担当を決めたわけでもないのに全員が積極的に行動しています。コロナ対策もしっかり対応しています。球場に入る時に手の消毒をします。受付の時に体温の測定をして記録しています。ベンチの椅子も密を避けて間隔をとりセットしています。スコアカードへの名前の記入はくじ引きで決め、密にならない様に自分で記入しています。いよいよ準備が整い会長のお話が終わると、一斉に各ホールに分かれ、いよいよゲームの始まりです。皆な真剣な顔つきになります。八ホールを二十四打が標準です。二十四打より少ない打数で八ホール終わるか皆真剣です。簡単なようで難しいのが、グラウンド・ゴルフです。ホールをまわっていてホールインワンが出ると、グループで喜び合います。全員が真剣にプレーに取り組んでいるためか最近は一ホール二十四打以上打つ人はいなくなりました。非常にレベルが上がったと思います。私も県大会に何度

か参加していますが桂会の全員が、山梨県グラウンド・ゴルフ協会の大会でも約三百人中五十位以内には入ると思います。楽しみながら自分の興味ある事を学び、脳を活性化出来るスポーツだと思います。それに伴う認知症対策にもなります。シニアの学ぶ場所や交流の場にもなると思います。大勢の皆様がグラウンド・ゴルフを始め、仲間を作り、互いに健康で楽しい生活を送りましょう。



島田東区グラウンド・ゴルフ前史

島田桂生会 井本克二

二〇〇二年に茅ヶ崎の平和学園高校を定年退職した私は四月に上野原の鶴島に転居しましたが、幸いなことに二〇〇三年から島田東区の副区長、二〇〇五年からは区長になり地元の皆さんに溶け込むことができました。二〇〇七年五月に島田小学校グラウンド開催さ

れた島田公民館主催、教育委員会後援の「島田地区ふれあい教室」が開催され、初めてグラウンド・ゴルフを体験しました。十月の島田ふれあい教室例会は市営野球場で開催され、手入れの行き届いた天然芝で二ラウンド回ると体も心もフワフワしていい気持ちでした。中心人物は河内よし江さんで、また現在、島田桂生会の副会長の佐藤肇さんも参加していました

二〇〇八年五月に私は東区生き生きサロンを立ち上げましたが、七月の第三回例会で初めてグラウンド・ゴルフを取り入れました。お茶飲み会だけでは満足できない男性のためでした。また、東区以外の方々も参加自由としたところ、徐々に他の地区の方々も市営野球場に集まってくださるようになりました。野球場使用料が毎回二千円ほどかかりますので、高橋一江さんと相談してコインを入れられる箱を入り口にかけて参加者がワンコインをそこに入れることにしました。それは現在でも続いており使用料をまかっています。その後、私に代わって世話役となった長谷川隆さんが、畑の作物をたくさん寄付してくださり賞品にしたので一回はさらになんぼるようになりました。箱のコインが黒字になるにつれ、それも賞品となっていきました。その後まもなくグラウンド・ゴルフは島田桂生会の中の同好会となり独立し一層発展しました。

二〇一〇年八月に上野原市グラウンド・ゴルフ大会が丹波山村で開催され、上野原市、小菅村、丹波山村の代表が参加しました。その折わが島田桂生会は三位に入賞したものの、一位、二位を独占したコモアしおつチームに大差を付けられたので、試合後、小菅の湯につかりながら「金属製と木製のクラブ（スティック）の差だよ」と一同は悔しがったものでした。以後、急速に高価な金属製を買い

込むようになりました。それまで島田の練習は毎月一回でしたが、コモアチームは毎週二回も練習していましたので、後に島田も毎週二回練習するようになり現在に至っています。

丹波山の大会で親しくなったコモアしおつのチームとの交流会をすることになりましたので、会長の河内恒之さんが「県大会ねりんピックを目指そう」と言い出したこともあって、十月には高橋芳雄・一江夫妻と私の四人でコモアしおつまで練習を見学に行きました。市営野球場の深い芝生ではなくほとんどが土のグラウンドでしたのでボールの走りが速くて勝手が悪く、四人のトップの私は二ホール六十二打でしたが、コモアのトップ上原喜代巳さんは四十一打で差を見せつけられました。市営野

球場は芝の養生のため冬季は借りられませんので、二〇一一年一月からは島田中学校のグラウンドを借りることになりました。

今年度はコロナ騒ぎで市営野球場も島田中学校も一時使用できなくなり、また例年六月から十一月にかけて上野原ひまわりクラブ主催のグラウンド・ゴルフ教室も中断していましたが、十一月になってようやく開催されることになりました。これからは練習に腕を磨き県大会を目指すことと思います。



コモアクラブの練習を見学しました



初めて島田中学校でグラウンド・ゴルフをしました

クラブ紹介

本一寿楽会 細田和幸

私たちは本町一丁目で開催している寿楽会です。会員は九十名と大所帯ですが高齢者が多く活動がこじんまりとなるのは仕方ないかと思われれます。特にこの二年程はコロナの影響で集まる事自体が制限され何もできない状態でした。

十一月頃より、やっとコロナも落ちつく気配を見せ規制も少しゆるくなった。それではそろそろ活動を開始しようかと考えている所ですが、今度は寒くなり身体の動きがにぶくなりました。結局は何も出来なく絶対やらなくてはいけない恒例の会員の皆様に記念品配布を実施致しました。その段取りの写真を掲示しました。毎年このとで皆要領よく一時間たらずで完了し解散しました。



単位クラブから寄せられた活動の様子

新一青老会



小沢寿会



小沢寿会では、毎月第1日曜日に氏神様の佐田神社境内の清掃を行っています。近年高齢化により若手の神輿保存会の会員にもお手伝いをお願いしております。また、寿会ではコロナ禍において不織布マスクの配布を3回(988枚)行いました。感染症が増えて来ているのでマスクの配布を考えております。一日も早く平穏な暮らしが戻ってくれる日を祈っております。



本二亀寿の会



原明朗会



桐原明老会



新井陽亀会



諏訪悠々会



秋山高齢者クラブ



沢松親和会



田町寿会



本三すこやか会



コモアシニアクラブ



西原なかよし会



大目豊明会



昭和の頃

新井陽亀会 奈良俊治

昭男 お早ようござんす(ございます)。

和夫 へえ(はい)、お早ようさん(さま)。今日はい、(よい)お天気で、やんべえだ(よいあんばい)なあ。

昭男 そりや(それは)そうと、おめえ(まえ)さんは、こねえだ(このあいだ)老人会のお宮(神社)掃除に出なかつたそうじゃねいかい(ないかい)。

和夫 あ、どうにもならねえ(ない)用が出来てなあ、悪かつたよう。

昭男 みんな元気ですよ、掃除が終わつてからお宮の集会所で、お茶飲みをやつたよ。お宮の境内や広場がきれいになつてよ。皆、せいせいいした(すがすがしい)顔でなあ、色々の話に花が咲いて、とても楽しかつたよ。

和夫 そりや(それは)よかつたなあ。話によると、今度、婦人会が、老人会の人々を呼んで、慰労会をやつてくれるちゅう(と言う)じゃあねえか(ないか)。

昭男 うん。いつべえ(酒が)出て、カラオケもやつてくれるそうで、ありがてえ(たい)ことだ。

和夫 それから、近いうちに、老人会でグラウンドゴルフをやるそうで、上野原中学校跡地の校庭を借りて、道具も役場で貸してく

れるからい、よ。

昭男 六人で二組を構成し、三組出来るからい、よ。い、運動になつて、楽しいよ。

和夫 そのうち、年一回の旅行もあつて、陽亀会は、老後の生き甲斐を与えてくれるから、ありがてえ(たい)よ。

昭男 まあ、皆で力を合わせて、地域の発展と、老後の幸せを築いて行くよ。

和夫 そうだなあ。色々頼むよ。

“「陽亀会」わし(私)に、幸せを与えてくれた。”

私は、大正生まれの老生で、歩行困難のため老人会の諸行事に参加出来なくなり残念です。そこで、昔を懐かしみながら、昭和の思い出話を綴ってみました。

最後に、老人会の益々のご発展を祈願してよき人生を送りたいと思います。



昭和63年9月グラウンドゴルフ

記憶の中の匂い

新井陽亀会 水越茂子

まだ字が読めなかった幼い私が『今朝の新聞と昨日の新聞に鼻を付け匂いを嗅いで今日の新聞を見分けた』と母が笑いながら話してくれたことがある。

今は、今朝の新聞と昨日のそれを嗅いでみても違いが判らない。印刷技術もインクも進歩したのか、私の嗅覚が衰えたのか、それは判らない。

幼い頃の記憶は匂いと繋がっている。祖母の家は乳牛を飼っていたから牛小屋の匂いがした。庭にサイロがあった。急な梯子を上がると暗くて低い天井の二階があつて蚕が桑を食むザザという音とお蚕さんの匂いがした。秋には脱穀機の音と乾いた藁の匂いがした。朝はひじろ（囲炉裏）で燃やす煙の匂いで目が覚めた。

小学校高学年になると東京の伯母の家に泊まりに行った。伯母の家は豊島区南長崎で酒屋をしていた。椎名町という町名も懐かしい。

東京にはその頃の上野原に無いものが沢山あった。例えば大きなプールのある遊園地（豊島園）池袋にはデパート、すぐ近くには貸本屋もあつて、四歳年上の従妹と怖いマンガ本を読みふけた楽しかった夏休み。

当時砂糖や塩は扉の付いた箱に入っていて量り売りだった。扉を開けると砂糖の匂いが鼻をついた。あの時から砂糖は苦手だ。祖母の家とは違って東京の叔母の家の朝はガスの匂いがした。

懐かしい匂いの記憶は他にもある。祭りの夜店のエチレンガスの匂

い、物置小屋の床いっぱい広げた摘みたての茶葉の匂い、などなど。これらの匂いは記憶の片隅に微かに存在はしているが、今はもう同じ匂いを感じることはできない。幼い頃は毎日が新鮮で幸せだった。今は……という朝の珈琲の香りにささやかな安らぎを感じる毎日である。

晩秋譜

小沢寿会 森川耀雄

『夢について』

夢とは何だろうか？ 小さい時に画いたもの、成人になってから画いたもの、みんな違う。歳を重ねなければ画けない夢など、そして良かった事、悪かった事など、みんな経験したからこそ見出せるものなんだ。夢には年齢に関係なく見出せる百人百色である。数々の夢に待ったがかかったのは昨日までのこと。夢をもつてゆきたい。そして今年の夢は何だろうか？ かなえられるのか？ 我がままは自分だけにして、妻にもあるだろう。それをわきまえよ、卒寿にして思う夢である。

『父の大東亜戦争の追記』

むろがや三十八号で書きました内容が戦争を奨励するが如きものがありましたので追記しました。誤解のない様に。日本が大東亜戦争と呼んだあの大战の実態が果たしてどんなものであったのか？ 日本の占領下に独立したビルマの元首バーモー博士が



独立運動の歩みや波瀾万丈の生涯を書いた自らの独立動乱の風雲録、そしてチャンドラホース、ラウレルスカルノなどかつて大東亜共栄圏のヒノキ舞台で活躍したアジアの指導者が相ついで世を去った今、唯一の生き残った証人による「ビルマの夜明け」を読んで感動しました。「アジアのアジア」を忘れる事はできない。平成の時代（年代不詳）国民党が発足し、アウンサンスーチー女子が代表となり民主化されたが令和に入り再び軍隊によってクーデターを起こされ社会主義国家に逆戻りされみじめな統制下におかれてしまいました。本当に残念ですね。

私が父の軍事郵便の集録を決意したのも過去の軍国主義時代に対する郷愁や礼讃ではなく、はるかに遠くなった時代に故国をはなれ明日への生死すらわからない異郷の地でその時々的心情をこまごまと家族や友人に書き送った書状を後世に残したい。そして戦争という冷酷な事実の前に消え去ってゆくであろう歴史的な事がらが今となっては尊いまでになつかしく、それが温かく蘇ってきて無言のうちには教訓として明日への歎びを与えてくれると思つたからです。

余談ですが最前戦での写真数枚掲示しておきました。前戦の酷暑の中で父が竹と古びた和紙で作った手製の扇子に書かれていた詩を掲載しました（原文のまゝ）

牛車にひかれて鈴の音高く

行くはカローか お湯の里

灯リケラホラさ霧にゆれて



タイ バンコクにて 前列左が父

夢を見たよな インレイ湖”

（詩）ビルマ派遣第五八八五部隊

陸軍曹長 森川光徳

以上。

朗読事始めの記

原明朗会 長 坂裕子

私が朗読に興味を持ちはじめたのは四十年前の頃ではなからうか。

四季の会というボランティア活動に入会させて頂いた頃、都留市の方で山梨県のボランティア活動の集まりがあり、その会の中でお名前をはつきり覚えていないが、確か河野先生とおっしゃる方が歴史を素晴らしい語り口で朗読をなさり私はその世界に吸い込まれるように時間の経つのも忘れて聴き入った事を覚えている。余韻が覚めないまま家に帰り朗読という独り舞台の魅力をますます感じるようになった。早速、四季の会の会長のNさんにあの日、朗読をされた方は何処に居られて、朗読の指導をされているかを尋ねたところ、初狩で地元の婦人会の方々に指導をされているらしいこと分かった。早速、近所に住む友人のFさんを誘い二人で初狩まで練習に通ったことが思い出された。その頃は、若さもあつてか、実に楽しい時間であった。どの位通つたかは忘れたが、横浜にいた母が体調を崩したことがあつて、一度は朗読を止めることになつたのであるが、その母も回復して元気になり、再び朗読の世界に入りたいと思うようになった。

上野原に朗読を東京の方で活躍されている方が居られることを知り、友人と二人でお願いに伺つた。その先生が網野先生である。

その後、何人かの人たちも加わるようになり、だんだんと人数も増えて今では四つのグループになり網野先生のご指導のもとで皆さん活発に朗読に励んでいる。今では「朗読の集い」として年一回発表会が開かれて大勢の方が聴いて下さり私たちの励みになつている。

また上野原市の広報をテープに吹き込み目の不自由な方に聴いていただくことをみんなで順番に交代してやった事もあった。

私自身も甲府まで行き目の不自由な人に本を読みテープに吹き込むことをしたことがある。今思うと本当に懐かしく思い出される。また、上野原市の「太陽の集い」では司会を頼まれたり、地域のイベントにも参加協力して喜ばれたこともあった。

いつか、母に「第二の人生があつたら、何がしたいの」と訊いたことがあった。すると母は「舞台俳優になりたいわ」と返つて来た。そういうえば私の小さい頃、よく水谷八重子が出演する新派劇につれて行つてもらつたことを思い出す。そうか私が朗読に興味を持ったのもこんなところに原点があつたのかもしれないと思つのである。

私にはとても舞台になど立つ自信はないが、朗読という独り舞台で聴いて下さる皆さんを私の世界に導き引き寄せることが出来る楽しみがあるのだ。残り少ない人生であるが、せいっぱい自分の好きな道を朗読を続けて行ければと思つている。

母への思い

秋山高齢者クラブ 関 戸 明 子

昭和十五年私が三才、母が二十八才妹のお産の時でした。私は母

の前に座らせられた。母は私をジート見ながら赤ちゃんだけを残して苦しうに息を引きとりました。その時、祖父とおば二人私と一才の妹を育てるのが大変で生まれた赤ちゃんに手がまわらなかつたそうです。泣き引つて亡くなつたのを今でもおぼえています。戦争中でしたが、私の父は近衛でしたので最後まで日本にいました。父に電報をしたが、母の葬式に父の来るのを待っていたのですが、待ちきれず、土葬だったので父の事、祖父が博次ほりおこして見る力、と言いました。父は頭を横にふりながら子供のことをたのむよ。そしておとつちゃんお身体にきをつけてな、と家を後にしました。それから二、三ヶ月が立ち母の実家は近くにあり妹一才をあずけて、祖父とおばさんと三人で東京に居る父に面会に行きました。

父は私をかわいくて空に上げたり下げたり私は昨日のこの様におぼえて居ます。それから戦争がはげしくなり、お金もない毎日子供なりに感じ、戦争が早く終わつたらと思いました。そんな時父から電報が有り「フライリッピン」に行く。これが父の最後でした。

両親が亡くなり小さい時から人に親がなくてカワイソウと言われてたくなくて、自分で明るく生きてきました。祖父も叔母も私と妹を育てるための苦勞もしたでしょうが、私なりにさみしい思いもしました。文章に書ききれないほど色々な苦勞もしましたが二十才の時です。結婚のことで両家そして親戚全員に反対され、小さい時から強く生きて来たつもりですが、この時ばかりは母がいたらならーと、星を見てどうして早く亡くなったのよ、さんざん泣きました。主人のおかげで今が有ります。

新聞配達、温泉つとめ、百姓と夢中で働きました。反対していた主人の両親は明子で良かったと亡くなる時に言った言葉が何よりう

れしかった。私の子供、孫に愛情をそいで行きたい。八十三才元気が有りがたい、近所皆に感謝です。

人生三つの後悔

四方津シニアクラブ 齊田 ミマコ

私はこの上野原に昨年ゆうパックスのダンボール十個で転入してきました。それも全く下見する事もなく紹介された古民家に住んでいます。生まれも育ちも東京ですが転入前の三年間は娘の住む沖縄におりました。海の環境から山の環境への移動です。日々「山の彼方の空遠く…」という昔の詩を思い出します。

関東内での移動を含むと十回以上…必然的にそのたび断捨離がなされ結婚の際両親が持たせてくれた家具、着物など全て処分…残るは自分の衣類、家族の写真、それとジャラジャラ安物のアクセサリなどなどです。

しかし!! 移転はいろいろな事が住みながら学べ、経験できる、私にとつては刺激、変化、発見でもあります。人生の終盤になりいろいろある後悔の中からベスト(三)を書いてみましたくなりました。

その(一)

それは我が娘が中学一年生の時、学校からの成績評価がオール五だったのです。普通の母であれば「凄いわねえー、よく頑張りました!」ハグハグとなるのですが、私は自分の子供の頃その様な経験もなく、嬉しい感情はあるものの「あら凄い!」とか言った様な言わなかった様な…よって娘は今でもその物足りない母の感情表

現の不満を事ある事に話すのです。昭和の母はこんなですよ:ね。言い訳をするなら幼い頃から同居の祖母が厳しく喜び満載の表現は控え目に育ちましたので。

その(二)

それは悲しい経験から後悔へととなりました。一人息子は地方出身の方と結婚し彼女の郷里に住んでいました。幼い頃より優しく、声を荒げたり、感情の爆発もなく、「俺は何事があつても逃げない!」とか申し耐えて努力するタイプでした。しかしそれが裏目に思える事が私には何度かありました。

私の父は、私が結婚する時「イヤな事があつたら相手を蹴飛ばして帰って来い!いつでも部屋は空けておくぞ!」つと普通嫁ぐ娘に言わない様な事を言ったのです。でもその言葉は一生忘れなく、私は父大好きな娘でありました。こんな言葉を息子にも言ってあげたかった。彼は去年高齢者運転の交通事故で空の彼方に行ってしまったのです。

その(三)

これは数ある海外一人旅の際の経験です。国は多分英国かと…私は地元の日観光バス旅行に参加しました。たまたま隣に居合わせた白髪のお婆さんが「Candyいかがですか?」と差し出されたのです。私はとっさに「No!」とだけ言ってしまいました。

多分遠慮深い日本人魂に左右されたのでしょう。どうしてあの時「No,thank you!」と言えなかったのか…。今でも悔やまれます。家庭の事を忘れ旅をした思い出。今は身近な国内、この日本が素晴らしい。先日遠出の際、電車の窓から見える東京の小さい箱の様に住まいにはもう戻りたくありません。

太子一四〇〇年御遠忌記念御神酒奉納永久収蔵展」が開催されました。ラベル作品の依頼があり、私は光り輝く露を意とする「露華」の二字を、謹んで揮毫し奉納しました。

全日本書芸文化院主催の第七十一回全国書道コンクールが実施され、古家和奈さんが、中学三年生の部で「最優秀大賞」に輝きました。和奈さんの喜びの声です。

山梨県幽峰支部 中学三年 古家和奈

「顔真卿の建中告臣身帖より、四文字を選んで書きました。ふつからとした字形で丸みがあり、それをバランスよくおさめるのが難しかったです。特徴ある「はね」を書くときは、筆づかいに注意しながら書きました。最優秀大賞をとることができたと聞いたときはとても驚きました。一生懸命練習した成果が結果に出てうれしかったです。」

十二月十二日に東京一ツ橋の如水会館において授賞式が挙行されました。大きなトロフィーと賞状が万雷の拍手と共に和奈さんの手に。とても嬉しそうです。作品は、十二月九日から二十日まで国立新美術館に展示され、多くの人に観ていただきました。

今は流行らない言葉かもしれませんが、「努力の大切さ」を、書道を通じ伝えていきたいと思っています。



ぞっとした事

コモアシニアクラブ 田中醇治

その頃、私は甲府の実家で一人暮らしをしていた高齡の父を毎週土曜日に訪ね、一泊して日曜日に帰るといふ生活をしてきた。父は高齡だがすこぶる元氣であつたし、市内には私の妹二人が住んでいて、何かと身の回りの世話をしてくれていたので安心していた。

父と酒を酌み交わし、世間話をするのも私の楽しみの一つだつた。しかし、月曜日は勤務なので日曜日にはなるべく遅くならないうちに上野原の自宅に帰るようにしていた。

しかし、ある時いろんな事があり、帰りが真夜中になつてしまつた。筐子トンネル出た所、左側には飲食店があり、甲府への行き帰りに家族でよく休憩や食事をしたりしていた。

子ども等はこの店のソフトクリームが大好きで、店が近づくと、「三角の家、三角の家、」と言つて寄るのをせがんだ。家の形が大きな三角形をしていたからである。

さて、その店の前を真夜中に車で通りかかった時の事である。白い着物を着た女の人が立っていて手を挙げたのである。真夜中で雨もしよぼしよぼ降っている。

一体何処に行くのだろうと思つて、思わず車を止めてしまった。「どうぞ」と言つて後ろを振り返つて驚いた。もう、後部座席に座つていたのである。ドアを開ける音も閉める音も聞こえなかつたのである。その時は何て素早い人だろうと思いつつ、余り気にもせずそのまま運転を続けた。二、三キロぐらい走つたところで氣になつた

ので、「何処まで行きますか」と言いつつ後部座席を振り返って驚いた。乗せた筈の女の人が居なかったのである。

疲れていたし眠い目をこすりながらの運転だったので、きつと寝ぼけて夢でも見たのだろうと思いつつそのまま自宅に帰り寝てしまった。

次の朝、昨夜の事が気になり、車を調べた。

驚いたことに、女の人の座った所だけがぐつしよりと濡れていて。その途端、全身が凍りつきぞつとした。しばらく震えが止まらなかった。昨夜の事は、夢まぼろしではなかったのだ。幽霊を車に乗せてしまったのだ。

そう言えば女の人を乗せた場所から約一キロの所に寺がある。寺に帰る幽霊を車に乗せてしまったのだと思った。

それからは、一般道(国道二十号線)は通らないようにしている。甲府方面に行く時はいつも高速を利用している。

しかし、冷静に考えれば、座席が濡れていたのは、後部座席の窓が少し開いていたからであり、女の人の事も夢まぼろしであったとも思えるのである。

けれども、あのぞつとした感覚は今でも時々よみがえり、何やら不思議な気分になるのである。

東京タワーを創った男

コモアシニアクラブ 中沢 敦

国破れて山河在り。昭和二十年。完膚なきまでに叩きのめされ廃墟の中から日本国民は立ち上がりました。そして、復興に向けて堪

え難たきを堪え、一所懸命に働きました。苦節十年、生活もようやく落ち着いてきました。もはや戦後ではないと昭和三十一年の経済白書は書いています。

戦後の復興の一翼はソニーのトランジスタラジオが嚆矢となり、日本の電気製品は世界を席巻してゆきます。テレビ放送は昭和二十八年にNHKと日本テレビが試験放送を開始します。テレビを一般に広め大衆化するため日本テレビは東京・新橋駅前の広場や、西武新宿駅前に街頭テレビを設置しました。その後プロレス放送が始まり、力道山とシャープ兄弟の試合が放送され駅前広場は連日黒山の人だかりでした。そしてテレビは徐々に普及していきます。

テレビの普及と民間放送局の増加に伴い高度なアンテナが必要になりました。

構造力学を専門とする学者で、戦艦大和の鉄塔や、名古屋テレビ塔や大阪の新通天閣の設計を行い、日本の塔建設の第一人者である内藤多仲博士が政府の諮問を受け、その設計を引き受けます。

地震や台風が多い日本の風土で三百mの鉄塔を建てるのは至難の業です。当時、東京の建築は九階建までしか許可されず、三百mを超える想像すらしなかった建造物でした。しかも総合電波塔としてだけでなく、見た目にも美しい東京の新名所として、さらには「日本のシンボル」となることを目指して設計されます。

此の、世界一の東京タワーを設計した、内藤多仲博士は山梨県出身です。中巨摩郡榑村(南アルプス市曲輪田)に明治十九年に生まれ、旧制甲府中学(現甲府第一高校)から第一高等学校―東京帝国大学に入学、当初は造船学を専攻したが、建築構造学に転向します。そしてアメリカ留学、大正二年、早稲田大学教授に就任します。

アメリカ旅行中に
トランクの仕切り板
を外して積んだた
めトランクを壊して
しまった体験や船の
構造から着想を得
て、帰国後に耐震
壁による耐震構造
理論を考案しました。



内藤の理論が実証されたのは構造設計した東京丸の内の日本興業銀行本店が竣工後すぐに、関東大震災に遭います、他のアメリカ流の鉄骨造ビル群は大きな被害を受けますが、興銀は無傷だったことで内藤の理論は一躍有名になります。震災時に、内藤の設計による旧歌舞伎座は建設中でしたが躯体無事でした。

東京タワーの設計の依頼を受けた内藤多伸博士は、左手に計算尺（当時はパソコンはありません）右手に万年筆を持ちスケッチスタイルで設計図を仕上げ、図表も公式も神業のような速さで書き上げた設計図は二万枚に及んだといわれています。

一脚だけで四千トの重圧に耐え、さらに各脚が開かないように地中で直径5cmの鋼棒二十本で対角線上に結ばれています。鉄塔は約九十mの風速に耐え、関東大震災以上の地震にも耐えられる設計になっています。

東京芝の増上寺の敷地に建設が開始されたのが昭和三十二年六月、完成は翌三十三年十二月異例のスピード工事でした、現場は常時四百人の関係者が朝六時から夜の六時までフル稼働で、しか

も鳶の職人たちは想像を絶する高所で三十cm位の足場を伝いながらの作業でした。他に鍛冶工や塗装工など、工事に携わった人は延べ二十一万九千三百三十五人だったそうです。

鋼材は四千二百ト使用されましたが特別展望台から上の鉄材は当時の日本では良質の鋼材が大量に無いので、朝鮮戦争後のアメリカ軍の戦車九十台の払下げをうけ、大谷重工業が融解して使われています。

この大谷重工業は、元大相撲力士の大谷米太郎が興した会社です、富山県の貧農の生まれで、途中ケガの為断念、鉄鋼会社を興します、やがて、東京紀尾井町の二万坪の敷地に「ホテルニューオータニ」を作ります。

東京タワーが完成した昭和三十三年はいろいろなことが思い出されますが、何と言っても当時皇太子（平成天皇）と平民である正田美智子さん（日清製粉社長の令嬢）の婚約発表があり日本中を驚かせます。美人で清楚でしかもしっかりした口調で話されて、まさに皇后になるために生まれてきたような方で、たいへんな「ミッチーブルム」が巻き起こりました。

プロ野球では長嶋茂雄が鳴り物入りで読売巨人に入団します。そして「四番サード長嶋」と拔擢され開幕戦に挑みます、迎え撃つは国鉄スワローズのエース金田正一、長嶋を四打席連続4三振に打ち取り話題になりました。

この年に世紀の発明と言われるインスタントラーメンが発売されます。

昭和三十四年、東京タワーからテレビ電波が送り出されます。四月十日、皇太子のご成婚の式典が行われ、クラシック馬車でパレー

ドが行われ、お二人の姿がテレビ中継され満都は大変な盛り上がりでした。このパレードを見るためにテレビは一気に普及して二百万台を突破しました、ミッチーブームがきっかけとなり、テレビ時代が始まった、そのシンボルが東京タワーだったと言えます。この東京タワーは内藤多伸博士の理論と実践が災害大国日本の高層建築の礎になつていると言えるのではないのでしょうか。

筆者は、この年社会人として世の中にたたき出されました、これより恥多き人生が始まります。二十二歳でした。

池田首相が所得倍増計画を発表し、東海道新幹線の工事が着工して、東京オリンピックの開催も決まり、日本が世界に誇れる国の時代になります。

最後に、内藤多伸博士のプロフィールと主な建築物を紹介します。
褒章・紺綬褒章、紫綬褒章、文化功労者、勲二等旭日重光章、従三位

主な建築物・早稲田大学大隈記念講堂（重要文化財）、東京丸の内、明治生命館（重要文化財）広島、世界平和記念聖堂（重要文化財）名古屋テレビ塔（登録有形文化財）等々多数です。

「八米」に思う

八米泉会 村上敏子

私が八米に来てもう六十年も経ちます。

生まれたところは甲東地区桑久保平呂でしたから、富士山も、遠くの山もよく見えました。

でも嫁いできた八米は仲間川沿いの低いところ。富士山も遠くの

山も見えず、まわりを河岸段丘の崖に囲まれています。

でも川沿いの段丘の土地のため、土地は平らなうえ何より湧水があちこちにあり、飲み水も水田用の水も豊富でした。生まれた所では平らな土地は少なく、水も豊富ではなくて稲作は僅かしかできませんでしたが、八米は違いました。

私が八米にきたころは川沿いの土地はほとんどが水田で、春になると一面に蓮華が咲き、子供たちが花を積んで遊ぶ姿があったものでした。夏の一面の青々とした田、秋の稲刈りのあとの「牛」が懐かしくなります。

今は田んぼはほとんど無くなり、わずかな数だけが残っています。あとは野菜畑に変わり、わずかに手付かずで荒れたままのところも見えます。数十年がたったとはいえ、「八米」の地名にふさわしい地域だったものが随分変わったものと少し寂しくなります。

八米にも時代の流れは押し寄せ、子供たちの遊ぶ声もいつの間になくなり、賑やかだった毎年九月のお祭りも大人神輿も子供神輿も担ぐことができなくて久しくなりました。

私の子供たちの小さい頃はあんなに賑やかだったことを思い出すと寂しくなってしまう。

それでもここ数年で嬉しい事もあります。

八米の三件の家でお嫁さんがきて、それぞれ赤ちゃんが生まれ、元気に大きくなっています。空き家になつていた家を改装して引越してきた小さい子のいる若い家族もあります。

また八米を離れて暮らしていたご夫婦が、定年を機に実家を改装して八米に戻ってこられたご夫婦が二組もあります。またこれまで八米に縁のなかったご夫婦も一組、数年来住んで地域に馴染んでく

れています。

日本の各地で人が減り、無くなってしまいう集落もあるという中、本当に嬉しいことだと思います。

八米に住む人々は、他の地域と比べ気持ちが穏やかだとよくいわれます。きっと、川と段丘に囲まれて他地域とは接していず、平ら地形に家々が寄り添っているために、他とはちがう独特の穏やかな氣質ができてきたのではないかと思うのです。

私この八米が好きです。

地域ごとに様々に変化のある地形をもつ上野原が好きです。

「太い箸」

西原なかよし会長 田助成

母の生家は、同じ集落で百メートル位の所だ。高台にあるお寺の

下から、成り樹木に囲まれた家に嫁いだ。春はピンク色の強い花が咲く豊後梅の古木が二本、初夏は棟より高い大木のリンゴの白い花が咲き、秋は甘柿、ユリタン柿、百目柿が十本赤い実を付け、冬は二本の柚子の木に黄色い柚子が実る家で、十二人姉弟の一番上の生まれであった。祖父母は、七十歳を越しても元気に畑仕事をしていて、私の家でどんな作物を作っていて、何が不足しているかも知っていたようだ。祖父は小まめに野菜を作る人で丁寧な仕事をする人だったようだ。京菜、スナックエンドウ、シャクシ菜など畑の大部分をコンニャクしか作っていない私の家の勝手口に色んな野菜を置いて行った。

私が高校二年の頃、祖父達の秋の仕事が遅れていることが解っ

た。十月は牛や山羊の冬の餌となる刈り干し草、立草刈りの時期である。十月二十五日近くになっても草刈りが終わっていない話を聞いた。八百メートルの高い所はみぞれになる頃だ。私は母の詰めた土方弁当を持って祖父達の手伝いに山へ行った。丁寧な仕事をする祖父と違い、私の方が少し沢山立草を作ることが出来た。昼になり三人で弁当を開けた。祖父達は萱の太いところを折って箸にし食べる。私は真つ直ぐに伸びた小指程の栗の木を伐って皮をむいた三十センチ位の太い箸を作って飯を食べ始めた。

祖母が聞いた「助成はいつもそんな箸で喰うでか？」私は頭を縦に振った。祖母が続けた「まあ助成は孝市と同じだなア」と言つて祖父の顔を見て、笑った。祖父もニコニコ顔で私を見ていた。孝市とは、私の母の弟で祖父達の長男である。昭和十九年十二月六日召集を受け輸送船で南方戦線に向かう途中、米軍の攻撃を受け、舟諸共、海の藻屑となった叔父さんである。

それから三十年、私は仕事仲間の人達と会津方面に旅行に出掛け、会津若松城を観て、東山温泉のホテルに泊まり翌日飯盛山に登り、白虎隊の終焉の地を訪ねた。会津平野の水田を潤した水門から逃げ出した隊員達が会津の街が火の海になっているのを城が焼け落ちたと見誤つて藩の行く末を悲観し自決したことの顛末をガイドさんが話した。白虎隊の少年達は、私の高校生の息子と同じ年の子供達である。私は十七基の石塔に線香を手向けた。

最後の石塔の文字はぼやけて読むことが出来なかった。以来、私は息子には偉い人にならなくても良い、高給取りにならなくても良い、社会の為になる地味な仕事を元気にやってほしいそれだけ願うようになった。

後に近くの方から聞いた話だが、祖母は戦争が終わってからも十年程桐原軍荼利神社へ参拝に通つたとのことでした。終戦直後、同じ集落の人で「戦死の公報」のあった人の葬儀を支度していた処へ本人が帰還され、その人が自分で墓標を片付けた事実があったので祖母も我が子が南方のどこかの島に居るのではないかと、もしやもしやの気持ちを消すことが出来なかったのだろうと思いやられた。初めての孫が戦死した我が子と同じ太い箸で喰う癖が同じだったということが、どれ程祖母達にとっては嬉しいことだったのかと飯盛山で解つた。

どんな事態が起きても武力での解決は行使してはならないこと。優秀な人材を失い、すべての妻母親達に悲しみとむごい事実しか残らないからだ。皆の力でその方向へはNOと言おう。

生きる力



沢松親和会 小俣 キヌ子

私は市社会福祉協議会の受付でかけてくださった、あの一言の一言で励まされて生きる力を頂けた事を有難く思っています。

そのお言葉の数々は「むろがや」の原稿提出の時「毎年ありがとうございます、ああきれいに書いてますね」とか、いきいきサロンの活動計画書を見ていただいた折り「楽しそうですね」とか「フードバンクへ食べ物を持参した折は「おいしそうですね、確かにお渡しいたします。」と、これらの言葉は無くてもいい「ご苦労さまです」の一言ですます事が出来るかと思ひますのに、わざわざ一つ一つの行為に励ましの言葉を添えてくださる事は、私たち老人があ

坂を登ってやっと社協に着いた時、その暖かい一言で癒され喜びに満たされて明日へ向かつて、がんばって生きようとゆう力を呼びおこしてくださいませ。

帰りには、足取りも軽く、元気でいられたらまた続けていこうと強い力が湧いてきます。

本当にうれしく思っています。

逆に他の所でこんな経験をしました。そんな権威ある方の一言「その年齢でそんな事をする必要があるのか？」等と言われて、年寄りだつて健康で望みを持つて生きる権利があるのだと腹立たしく思つたりしましたが、今振りかえつて見ますと社協の皆さまのあの一言を思いかえしてみても、あの方の「その年で云々：」は私を心配してくださつた一念からだと思えるようになり、前向きに物事を考えられるようになりました。

市社会福祉協議会の皆さまの福祉の心に敬意と感謝を申し上げたいと存じます。

どうぞこれからもその暖かいお心を持ち続けて弱い立場の方々に寄りそつて下さることをお祈りいたします。

ありがとうございました。

玉木愛子の歩んだ道



沢松親和会 小俣 庄三

先年ハンセン氏病の患者や家族に対し、当時の安倍首相が政府を代表して当該病気に関し過去の政府の施策が誤りであったと、謝罪したと言う報道があった。

この施策の犠牲者の一人であった女性を思い出した。その人は玉木愛子といい数奇な人生を歩んだ女性で以下に記すような歩みをした人であった。

彼女は一八八七年（明治二十年）十二月二十八日大阪島ノ内の豊かな商家に生まれた。五歳の春、従兄が亡くなりそのお葬式に母と共に参列した。叔母の家は工場を経営し職工が大勢いた。その内のKと言う人が特に愛子を可愛がり、その時もいつもの様にKに抱かれて頬ずりをされた。このKは顔に赤い斑紋があり、それがライでこのKより伝染した。

その後山村流の舞を始め舞から生田流の箏曲も小学校に上がってからも続けていた。

七歳の春に左足に水泡の出来たのが本病発見の最初で、十四歳の春頃から小指と人差し指の力が抜け背中に白雲の様な斑紋が出来た。その秋の体格検査で校医に怪しまれ、母親にその旨報告した。

病名を明かされて蟄居生活をしている時病気が治りたい一心で写経をしたり経文を唱えたりした。十八歳の夏に父が旅先で客死し暮らし向きがすっかり変わり、この事があって自分一己の幸せを願う利己的な信仰の誤りを知る。やがて此の世には神も仏もないと思う様になり死を考え、死こそ唯一の勝利の道と思った。その後、妹の縁談が持ち上がった。家には妹の結婚に支障が生じると思い出家を決意する。

その頃熊本に英国の一人婦人が開いているライ病院のある事を知り、母にかくれて手紙を書いて出した。数日たって院主のリデル女史から熊本回春病院の院長三宅先生に送られ、三宅先生からの手紙で入院を許す旨と併せてキリスト教に関する数々の教えを教示され

私の行くべき所は此処以外には無いと悟った。

回春病院では聖書、祈祷、賛美歌の中にあつて治療が行われた。籠から放たれた小鳥の様に一年半この道を求める為に聖書を読み、祈りと讚美に努め一九二一年（大正十年六月五日）米原薫牧師により洗礼をうけた。その頃右足首に炎症が起り高熱を発し下駄を履けなくなり、膝歩きをするようになり、車椅子に乗り萎えた手でハンドルを取つて朝夕の礼拝に出席した。一九二八年（昭和三年六月）に同じ右足首に炎症が起り長期病床生活を余儀なくされ、余りの苦痛のため思いきつて右足の切断を院長にお願いしたが断られる。

越えて昭和四年二月に衰弱しきつた体に加えて足首の傷から四十度を超す熱が出、故郷の母へも打電し死の準備をしたが幸い熱は下がり死から脱出した。二月二十八日に、たつての願いが適い右足切断の手術をした。

昭和六年に義足が出来て八年ぶりに歩いてクリスマスの正餐式に出られたがその月から今度は左足首の炎症から熱が出て病床、そのままが明け衰弱が加わつていった。この時も死を覚悟しなければならぬ状態であった。院長からの急電で駆けつけた母は喪服を用意して弟と駆けつけたが、母の介抱もありようやく回復した。その後救ライに関する映画脚本募集に応募した愛子が意外にも等に入つて賞金を貰った事などもあり一部の婦人から嫉妬、中傷されたりしたので母に転院したい旨の相談や、今の院内の事情を送つたところ「入院料の滞るのも、実は嫁に隠れて為すために意のままに出来ない。あなたの決心された方向に進みなさい」と諒解された。

長島愛生園に移ることを決意し十四年間培われてきた靈魂の故郷回春病院に別れを告げるようになった。

昭和八年十二月に愛生園に移ったその頃より視力が弱まり拡大鏡を用いて読んでいた。

昭和十年今後の生活を考える時、どうしても真実の相互扶助者がなければ立ち行かないと考え、主にある同労者の牧紫水（玲二）と結婚した。

昭和十二年十月急に激しい痛みが起こって両眼を失明した。

眼を失ってから俳句を始め回春病院時代の神宮先生を師として兄弟の杉田星雲の勧めもあつて毎月開かれる運座会に出席してきた。

俳句をする様になってそれまでは、ぼんやり見ていた自然界が「諸々の天は神の栄光をあらわし大空はその御手の業をあらわす。この日言葉をかの日に伝へこの夜知識をかの夜におくる」（詩編）の聖言のごとく一層御業をあがめ讃えなければ已まなくなつた。

昭和二十九年六十六歳の時句文集「真夜の祈」を出版、同年三月三十日最愛の母が長逝する昭和三十年六十七歳の折自伝「この命ある限り」を出版する。昭和三十三年七十歳の時、俳誌「駒草」で一力五郎賞受賞、昭和三十八年七十五歳以後家郷との音信絶つ、昭和四十一年七十八歳で「駒草」の同人に推される。昭和四十四年三月二十六日召天する。

ここまで玉木愛子の一生をざっと見てきたがその歩んできた道は決して平坦な道ではなく波乱万丈の生涯であつたと思う。この大変な生涯を何を抛り所として生きてきたのかを考えてみたい。

玉木愛子の内心の動きを俳句を通して辿ってみると「年豆を夜空に投げて泣く娘かな」「私はこの年豆を戴くまい、お星様私は貴方のところに行きたいのです。一日も早くこの命をお引取り下さい」
こういつて泣きに泣き蟄居生活の後熊本回春病院、長島愛生院と移

り住み、両手両足のみか両目をも奪われ、全身マヒと各部分の痛み
に耐えた玉木愛子が「明けやすし真夜の祈りと思いに」「目をさ
さげ手足をささげ降誕祭」と言つた厳しい信仰生活と共に「盲にも
花がみえそな春の風」「初秋や橋新しく渡りけり」の心境に達し、
「なえた手をかさねていたたく草の餅」「かえりみて豊かに病めり
走馬灯」と静かに明るく賛歌をうたい続けて心安らかに八十一歳で
天がけつたのでした。

ハンセン氏病故に肉親のすべてと離別し孤独の中に手脚を奪われ
両眼を失明した愛子が苦難と悲哀に絶望し死と格闘しながら、つい
に到達した平安と感謝と愛に生きる歓びの秘訣が透けて見えるよう
に思う。

私達の生まれながらの肉体は破れ、生まれつきの性格は改まら
ず、心身共に惨めな有様であっても、神の恩恵により信仰によつて
与えられた霊的生命は新に信仰より信仰へと進んでいきます。

玉木愛子は長い信仰生活の中で、これらの心理を身に帯びて御父
がどれ程私を愛して下さつたかを知り、戦争の最悪時代にも聖言に
励まされ十字架の恵みと復活の喜びと併せて句作をする喜びとで斯
く平安な日々を過ごして来たのだと私は思っています。

上野原賛歌！その一

「リバーテラスの田園都市」上野原に

ダブルレインボウが出た！

新三すこやか会 谷 口 文 朗

ごあいさつ！

私は五十五歳の時にハツ沢の丘に新設された大学に着任しまし

た。以来三十年、上野原に感謝しながら八十五歳の誕生日を迎えることが出来た機会に、「来たりもの」の目に映った上野原のすばらしさについて「むろがや」に初投稿させて頂きます。よろしくお願ひします。

素晴らしい上野原を発信する時！

三十年前、上野原はニュースや情報が地面を這うがごとく伝えられる遠隔の地でした。三十年後の今、ニュースや情報は天空から上野原に舞い降りて来るようになり、パソコンやスマホで「世界の何処で、何が起こっているのか、何が起こっていたのか」について居ながらにして分かるようになりました。わずか三十年の間に上野原は日本全国、否、全世界に向かって上野原のすばらしさを発信できるようにになりました。

上野原に「幸せを呼ぶダブルレインボウ」が出た！

一年前に「むろがや三十八号」の表紙に島田地区にお住いの行田敏雄さんが撮影された「二重虹」の写真が掲載されました。私は「ダブルレインボウが幸運を運んでくれる田園都市」という新しいキャッチフレーズの誕生を直感し、大学に着任する前に勤めていた会社の友人に写真をメールしました。世界各地で仕事をして来たこの友人は「こんなに見事なダブル



レインボウを見たのは生まれてはじめて！」と感動を伝えて来ました。

私はパソコンで「ダブルレインボウ」を検索しました。上野原に現われたダブルレインボウは世界各地の六十余枚の写真の中で最も美しいものでした。私は「雲一つない青空に太陽光を反射させて輝いていたこともさることながら、このダブルレインボウが何時、何処に現れたか、写真を手にしながらその場所をこの目で確認できるのは凄いことだ」と思いました。晴天の日の午後にJR上野原駅南口の展望タワーから「真正面の山並み」を見ながら遥か上空を見上げて空高く架かったこのダブルレインボウに思いを馳せて「幸せを願ひ、幸せに感謝する日々」を持てるのです。

この写真が撮影された行田さんのお名前と日時と場所と撮影条件を記した「ウェルカムメッセージ」を上野原駅の展望タワーに大きく掲げて、上野原を訪れる人たちだけでなく世界に向けて「上野原の素晴らしい生活(QOL)」を発信しては如何でしょうか。

上野原は「風の幸」が漂う「リバーテラスの田園都市！」

私は上野原に三十年住んで「風の幸」を発見しています。五十五歳まで首都圏で過ごして来た私は「上野原に来て、春・夏・秋・冬を通してさわやかな風が吹いていること」を発見したのです。

「なぜ？」この風は「高校の理科」で学んだ「河岸段丘」から生まれていることに気付きました。そう言えば上野原小学校の大櫓の下の市道に「国土地理院跡地」という石標がありました。

上野原の河岸段丘の特徴は「空中写真」に頼ることなく、地上目線で河岸段丘を体感出来ることです。私は「河岸段丘」を「リバーテラス」と呼んで「田園都市上野原」をPRしています。「海の幸」

と「山の幸」に「風の幸」を加えた上野原のクオリティーオブライフ（QOL）を満喫しながら折に触れて日帰りで首都圏の芸術・文化・スポーツ・ショッピング・教育・医療などの恩恵を受けられる上野原を「ブラタモリに提案」しては如何でしょうか。

「亀山先生の蝶のコレクション」は上野原の宝物！

「風の幸」の発見は「上野原の風が美しい花を育て、美しい花が蝶を呼び寄せる」という次なる発見に繋がりました。新三区に住み二十余年、アサギマダラがわが家の庭のフジバカマに飛来しました。モンシロ蝶、モンキ蝶、シジミ蝶、アゲハ蝶、クロアゲハ、ツマグロヒョウモンの雄と雌、ヒオドシチョウの雄と雌、ゴマダラ蝶、アカボシゴマダラなど珍しい蝶に出会って「d-フォトアルバム」を作成したこと、私が大学でオオムラサキに出会って「オオムラサキを飛ばそう会」の活動を続けていることを語る前に、「亀山壽俊先生によるキマダラルリツバメの実物標本」という「上野原の宝物」について書き留めます。

上野原の月見が池に三十年前と同じ「キマダラルリツバメ」の標識が立っています。鳩山邦夫元総務大臣を上野原に誘ったこの蝶は「絶滅危惧種」に指定されたために採取はもとより「学術標本」を作ることさえ禁じられている「幻の蝶」になっています。

新町にお住まいだった亀山先生が「絶滅危惧種」に指定される前に製作されたこの標本は今や「歴史的標本」で「上野原の宝物」です。ご遺族が市に寄贈されたこの実物標本を含めた「ドイツ製の二百五十箱もの「蝶コレクション」と「蝶の採取用具」と「数多くの文献」は二〇一九年春にモミジホールで展示された後、旧平和中学校の空き校舎に眠っています。この「歴史的標本」をど真ん中に

配置して、展示内容を変えながら「亀山コレクション」を市役所ロビーで常設展示しては如何でしょうか。子供たちだけでなく私達に夢と感動を与えてくれるだけでなく蝶の愛好家を上野原に誘うでしょう。

「断捨離」を免れて市の宝ものとなったこの「亀山コレクション」は市の予算で専門家によって永久保存が可能なように修復されています。私は、亀山先生のコレクションをみた数日後に皇居で上皇陛下が作成された「ドイツ製の標本箱に収められた「皇居の蝶の標本」を見学しましたが、亀山コレクションは蝶の採取範囲と蝶の種類だけでなく雄と雌が揃っている屈指のコレクションであることをこの目で確認しました。

このコレクションを作られた亀山先生の「使命感と情熱と行動」について先生のご自宅で質問したことがありました。先生は「これだよ！」と言って「直径七十〜八十センチ、深さ一メートルほどの短い取っ手のついた蝶の採取ネット」を示しながら蝶を採取する仕事をされました。「取っ手だけでなく口径も折り畳んで携帯出来るプロ中のプロのための採取ネット」でした。この「プロ仕様の採取ネット」こそが、全国各地を訪れて、上下・左右・前後に飛翔する蝶を採取して、蠟紙に蝶を挟み込んで、持ち帰り標本にされた「亀山先生の秘密兵器であり、魂である」と確信しています。ご遺族はこの「プロ仕様の採取ネット」と珍しい文献を含めて亀山先生のコレクションのすべてを市に寄贈されたと承知していますが、この「プロ仕様の採取ネット」を含めた亀山先生の「蝶採取の秘密兵器」と「数多くの蔵書」が季節に応じて入れ替えられる標本と並んでモミジホールに展示されることを待ち望んでいます。〈その1・完〉

日本、花の文化小史(三)

塚場長寿会 諸角 弘

江戸の花文化の大発展

江戸時代の花文化は、日本の特色を發揮して大発展をとげ、中国を凌駕し、また西欧より先進しました。

その特徴は写真①のとおりです。現代ではいずれも当たり前のこと柄を日本が世界に先駆けて展開したもののなのです。

将軍の花癖(写真②)

江戸の花文化の出発点は、権力者の将軍が「花癖」といわれるほどの花好きが原因です。江戸城中の大名の話題も専ら花卉栽培で、大名の働きにより各地に花卉園芸の繁栄がもたらされました。

園芸書の刊行と植木屋の活躍(写真③)

明暦大火(一六五七)は江戸市街の改造拡大の転機となり、造園に必要な植木の需要は多くの植木屋を輩出させ、また園芸書の刊行は、品種や栽培法の知識が庶民の間に普及することになり、花文化は一層浸透していきました。

地方への広がり(写真④)

将軍や大名が力を入れた花への関心、努力は地方に花文化を広げました。中でも顕著なのは肥後熊本での肥後六花の誕生や伊勢松坂での伊勢三花の成立です。さらに地名を冠した嵯峨菊など、地方独自の栽培品種が創り出されました。

草本類花卉の改良

江戸時代に入っ

て丈の低い草本類の花弁栽培が大流行し、日本原種のサクラソウ、フクジュソウ、ハナシヨウブは改良されて世界の花に押し上げられました。写真⑤はサクラソウで、改良点は垂れ咲き花序、抱え弁、玉咲き弁など、日本ならではの美意識によるものです。

ハナシヨウブの改良

ハナシヨウブについては『むろがや』の二十八、二十九号に拙文を載せましたので、ここでは簡単に記します。

ハナシヨウブは旗本の菖翁松平定朝の抜群の育成力によって優れた多くの品種を創り出し、今日、堀切菖蒲園で保存されています。江戸で生まれた一群のものを江戸ハナシヨウブと呼んでいます。

写真⑥は松平菖翁自慢の「宇宙(おおぞら)」です。

伊勢ハナシヨウブ

松平菖翁と同時期、伊勢松坂の吉井定五郎が改良に手掛け、特徴のある伊勢ハナシヨウブの一群を創りました。

写真⑦は私の菖蒲畑に咲く美吉野。ミヨシノは伊勢系を一举に有

江戸期の花文化

1. 庶民への普及
2. 草本類の改良
3. 古典園芸植物
4. 変化アサガオ
5. 造園用の植物
6. 盆栽
7. 斑入り植物
8. 大衆参加
9. 同好団体
10. 専門職、園芸書

御三代将軍の花癖

家康 - 手入れ上手、域中に花壇
秀忠 - ツバキに熱中
家光 - ツバキ

家光 - 寛永のツバキ
綱吉 - 元禄のツツジ
家宣 - 享保のキヤデ
家治 - 享保のキヤデ
家齊 - 寛政のキヤデ、カラタバナ

園芸書の刊行

水野元膳「花壇御目録」 延宝九年
花村文三「花壇御目録」 天明八年
伊藤松軒「花壇御目録」 元禄七年
伊藤松軒「花壇御目録」 享保七年
伊藤松軒「花壇御目録」 享保七年

植木屋の活躍

明暦大火(一六五七)に被災
根元庄 園芸の専業に専攻
元禄のツツジを主産
四代武 享保のツツジを主産
ソウゴロウの創出

地方への広がり

京都 嵯峨菊
肥後 六花
伊勢 三花
山梨 花
山梨 花

名にしたスター花です。

肥後ハナショウブ

肥後の殿様が菖翁から分譲された苗を元に、武士の同好団体「花連」による組織的に「鉢植え用」として改良された品種群を肥後ハナショウブといえます（写真⑧）。

定めに則り室内に飾って威儀を正して鑑賞します。花菖蒲栽培の同好団体は今もなお健在とのことです。

カエデの改良

日本には紅葉する樹木が多くありますが、栽培によって多数の品種ができたのはカエデだけです。モミジからイロハカエデが創り出されたように珍しい枝変わりから選択されていて、交配によるものはありません。葉の形が掌状のものをモミジ、他のものをカエデと呼んでいます。植物分類上では区別はありません。

写真⑨はわが家の紅枝垂れモミジです。

トウカエデ

享保九年（一七

二四）清国船から

將軍吉宗にカエデ

の寄木が献上され

ました。吉宗は植

木屋伊藤政武に接

木を命じ、政武は

見事に成功し褒賞

されます。これが

トウカエデ（写真



⑩で木が丈夫なため街路樹として利用されています。政武は享保の力エデを主尊し、吉宗の命により飛鳥山を造園、また染井吉野を創った人物です。

ウメ

日本の梅は果樹二十品種に対し花木の梅は二百品種もあり、実用のものより観賞用が多いという人間文化の面白い現象を示しています。鑑賞用花木の梅は野梅系、豊後系、杏系、紅梅系があり、これに枝垂れ、錦性、筋入りなどが加わり多彩な花木となっていれば、江戸時代の改良によって、梅の故郷の中国を日本は凌駕してしまいました。写真⑪は紅梅です。

盆栽（写真⑫）

盆の源は中国の盆景ですが、鎌倉時代に八の木として日本化し、やがて今日見られる自然美盆栽に発展していきました。將軍家光の遺愛の五葉松盆栽は、宮内庁が管理しているとのことです。（続）



民俗学では「村」と書くよりムラと書く方が多く、ムラという言葉

葉は、もとは「ムレ」からでたもの。村をさす語に「部落」「村落」

「シゲ」「シマ」「ホウジ」等がある。

村の類型として、生業に関するもの、立地状態によるもの、村の開発当初の歴史的・社会的条件によるものがあり、草分けとなった人の家は日当たりのよい、水の便の良い背景が多い。又、村境には

心意的な境が有り、そんな場所には庚申塔、二十三夜塔、道祖神、お地藏さん等が多く、村人の疫病などの呪術をおこなった。

村の政治は、主に資産家の人が役人となり、役人の家で寄り合い、会議の方法は全員一致が前提であった。反対した場合は村八分となり、(藁人形を作り釘を打たれると云う事も)村八分になった人は神主さんをとうして詫びを入れたり、酒を振舞って詫びた。

又、共有地に檜等を植えた。葬式や祝い時のお椀、お膳は共有財産とした。

村の集団として若者組、娘組、子供組、講、村仕事など有り、若者組は十四才〜十八才で村仕事に参加、神輿の担ぎ手、夜回り、災難救助等で、加入時は保証人をたて、言葉使いや、喧嘩、博打はしないという集団としての約束事も決められていた。しかし祭りの時は酒や博打が許された。娘組は十五、六才の娘で、娘宿を持ち針仕事や、村の研修事やっていた。若者宿と交友もあった。子供組は年長者が中心となり教え、流し雛や、虫追い行事に参加した。講は信仰的な集団、伊勢講、秋葉講、富士講、御岳講、山の神講、庚申講、二十三夜講など特定の社寺や村の中の神仏に対する信仰者。村仕事は、村全体の共同作業で伝馬制度、修復作業、義務人足など。

松留村の起源……不詳……(明治八年松留村、八ッ沢村、四方津村、河合村合併して巖村に)

松留村は金沢、亀の甲、久保、上馬船、下馬船、根岸、社寺原、薄霞、悉聖寺、子の神で成り立っていた。

松留村の位置と累計は上野原駅の西に中央線に沿って標高二百五十M前後の地形にある集落で、中央南北に二十号が走り東に鶴川、南辺を桂川が清流し、両川は落差四M二十四という東電で

一番落差のない松留発電所の所で合流する。合流して相模川になる。この合流地

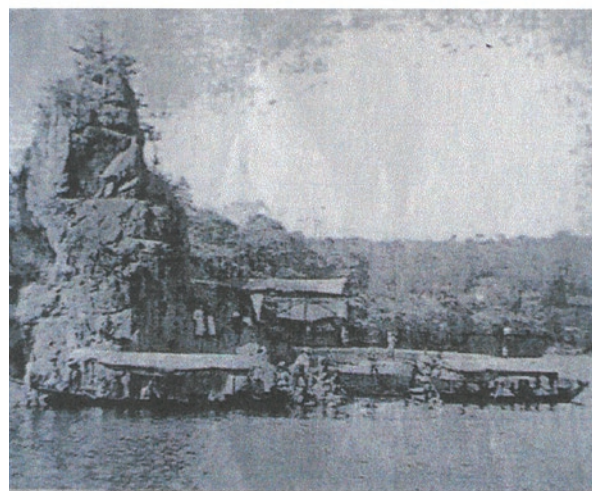
点は明治後半から昭和初期の、景勝地で駅前河内屋、

船橋屋、松留の依水荘の持ち船として屋形舟や釣舟が有り、此処が急流下りの支

点で有った。客の多くは東京方面からで、宿かかえの芸者さんと共に楽しんで居

た。釣舟の発着場は「竜宮淵」として小学統本にも登場していた現在の杵岩当たりで「魚の仕掛けを張る為に都心への勤めを終え、夜九時頃から月明かりを元に父親と網をしかけた」と八十代の先輩が語るように魚の種類も鮎、オイカワ、フナ、ウナギ等で今より豊富であった。又、明治三十六年国鉄が開通するまで桂川は材木輸送等の輸送手段の一つでもあった。

松留発電所は「水力発電方式、自流―水路式、認可最大出力一四四〇KW 水車一基、取水八ッ沢発電所、放流鶴川で昭和三年四月東京電燈会社が運用開始、昭和三十九年十一月無人となり八ッ沢発電所から制御するようになる。昭和五十六年八ッ沢発電所も無人化となり現在は大月の駒橋発電所で総括制御して月二回の巡視をしている。発電所が無人化になるまでは職員の話し相手として村民が遊びに行ったり、洗濯物を持ち込み発電機の風で乾かしてきたりして交流をしていた。



明治大正期頃の杵岩付近と屋形舟

生業としてはどうであったか 「天保三年の村高七通順列緒留では、寺一軒を含めて家数四十五、人数二百二十三、田高六石・畑高八十二石とあって畑がちな村であった」と『甲斐国誌』にある。

田は少なく、集落が川より高い地形にあるが故、昔から陸稲、麦、雑穀、蕎麦等で、これらの栽培成果は上がらず、大正に入り化学肥料が普及し成果が出るようになった。

又、養蚕が明治中期から農家の換金事業として営まれていた。こうした労力は殆ど男性と年配者であった。この作業の服装はと云うと、男性はシャツに股引、又はズボンに脚絆、地下足袋、或いは裸足で有ったり、ゴム草履、女性は手拭いに姉さんかぶり、又は麦わら帽子、木綿の着物、それに割烹着を付けたり、緋のモンペという姿が定番であった。

昭和二十六年其れまでの水田耕起や碎土は家畜力利用によるものであったが、動力耕運機を導入するようになり、労力の省力化と労働生産が進んだ。そして昭和二十八年から相模川流域周辺の土地改良事業が施行されたのを期に電気揚水による開田が進められ水田が増えたが、昭和三十年の豊作を最高として、その後は気象条件の不順と病害虫の発生、労力の低下等により減少。

昭和四十五年政府の水田休耕、作付け転換による奨励金の実施等により松留地区からも徐々に水田耕作も減りゼロになったのは平成十二年の事である。

この時の辞めた理由は建設省から河川使用の権利を受け、鶴川から電気揚水で其々の田に水を引いていたのだが、その権利を砂利会社に移譲し、その代償として揚水用ポンプの電気代を砂利会社で支払うと云う形をとっていたが、バブル崩壊に伴い会社が閉鎖とな

り、水田耕作をしても電気代が高み採算が合わない為、水田を辞めた。その後は畑として野菜を作ったり、そのままの状態。

昔から松留地区は耕作面積が少ない事と、現金収入、そして国鉄の沿線という事からか、早くから殆どが兼業農家であって、町内や京浜方面に通勤していた。

生活物資等は天秤や風呂敷包みを担ぎ戸々の家を回って来る行商人から買い、他に鍔掛け屋さん、葉屋さんという人達も回っていた。

戦後になってアイスクャンデー屋さんが自転車の荷台に箱冷蔵庫を付け、ハンドルに鐘を付けチリンチリンと鳴らしながら、

或いは沢山の品物を積んでオート三輪車での行商と、いったかたちにもなった。又、江戸の頃から「市」が立ち殆どの品物が揃い、

今より賑わっていた本町に買いに行く事も多かった。こうした「市」や「祭り」には、小遣いを握りしめ町へ行くのが子供たちの楽しみだった。

♪・・・ヤツサワ コラサ シンダクラ

ヒトサカコエレバ ウエノハラ・・・♪

部落によつては現在の葬儀場の横を通ってジョッパケ（城はけ）を上がり、又は新田の三宅坂を上がり町へ、いづれにしても坂を越えなければ町に行く事が出来なかつた事から、こんな歌が唄われた。とにかく歩いて行く事は何でもなかつた。

町の子供達は杵岩当たりの川に泳ぎに来ていた。大人は釣りに来ていた。

そして電車の複線化と共に、八王子、立川、あるいは都心へ出掛けるようになった。

斑鳩散策

沢松親和 井上肇

一 新聞を見ていたら、「法隆寺金堂焼損壁画の限定公開の募集」が目にとまった。

「一九四九年法隆寺の金堂壁画（奈良県斑鳩町）は火災に見舞われた。色彩をほぼ失いながらもかろうじて消滅を免れた壁画群は、合成樹脂や鉄枠で補強され、保管の為に建てられた収蔵庫に非公開で保存されている。

この壁画が法隆寺境内にあることを知る人四十八%、焼損を知らない人、知っているが保存の事実や場所を知らない人、四十八%…」と二〇二一年八月十日（火）の朝日に載っていた。

私はインドのアジャンター石窟群の壁画、中国の敦煌莫高窟の壁画が思い浮んだ。何日後やはり見たいと申し込みをした。九月を過ぎ十月八日待ちに待った知らせが来た。

ご招待状、十一月十八日（木）AM 11時30分～PM 0時00分、ガイダンス+収蔵庫見学、「親展」と封書にあった。

二 初めて乗ったのぞみ号、新横浜～京都間2時間弱だった。富士山が見えた。山頂に小さく丸い点に見えた。パラボラアンテナが嘗つてあったかと眺めた。しゅうまい弁当旨い。

十八日は快晴 法隆寺駅で入手した「斑鳩の里三塔周辺MAP」で巡る順を決めた。

① 史跡中宮寺跡はタクシー車中見学

② 法隆寺は聖徳太子建立にかかる七寺のひとつで、もとは太子の

岡本宮があったと伝える。三重塔は高さ二十四・五米で軒深くして佇む。

● 徒歩の途中にイチジクと色づいた柿を買い食べた。ほのかな甘み美味だった。

③ 法輪寺は三井寺とも呼ばれる。太子の子山背大兄王が建立と伝える。皇極二年（六四三）斑鳩宮を焼かれ、斑鳩寺で自害された。昭和二十五年発掘調査で法隆寺式伽藍配置と判明、講堂に入った。何か視線を感じた。見ると薬師如来坐像（左・写真）であった。即く絵ハガキを買った。薬壺を持たない樟材の一本造りで鞍部止利造とされる。光背は後補のもの。昭和十九年落雷で焼失した三重塔は、同五十年再建した。

④ 斑鳩神社（天満宮）は旧法隆寺村の守り神で岡の麓から今の所に遷したと云う。

⑤ 中宮寺は聖徳太子の御母、穴穂部間人皇后により太子の宮居斑鳩宮に創建された。旧地は東方五百米に土壇として残る。昭和三十八年の発掘調査で四天王寺式伽藍と確認された。

受付門の先に黄色い七糎程の実がなっている。庵羅樹と言ひ花梨の一種原木と聞いた。

本堂では畳に坐し、如意輪観世音菩薩を拝した。半跏の姿はスフィンクス、モナリザと並ぶ微笑像と呼ばれる。隣は天寿国曼荼羅繡帳は



聖徳太子の御妃橘大郎女が太子六二二年四十八歳の薨去を嘆き浄土を刺繍させたもの。

● 柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺 子規

法隆寺は飛鳥時代の姿を現在に伝える木造建築です。十八万七千㎡ある境内に東院伽藍、西院伽藍、大宝蔵院が軒を連ねる。伝来した宝物類は三千四百点に及ぶ。一九九三年に、ユネスコの世界文化遺産に登録された。

⑥ 東院伽藍 夢殿は聖徳太子の等身大の救世観音（秘仏）を安置し中宮寺の西隣にある。六〇一年造営の斑鳩宮跡に建てた（七三九年）上宮王院の中心です。

⑦ 西院伽藍 五重塔は庇用の差掛の裳階が目につく。高さ三十四米、心礎に舍利容器が納められている。初重の内部に塑土（粘土）群像が安置されて羅漢らの慟哭が見える。

⑧ 西院伽藍の金堂は現存する最古の飛鳥建築。従来六七〇年に消失とあるので、再建説、消失以前から建設の非建説がある。内陣は釈迦三尊像を中心に、東に薬師如来像に西に阿弥陀如来像が安置される。釈迦三尊の中央に釈迦如来像がある（聖徳太子等身像とされる）昭和四十三年に模写された壁画が再現されている。

⑨ 大宝蔵院 玉虫厨子の捨身飼虎図を見た次に、百済観音の慈悲深い表情で二百九・四糎の八等身の姿を見た。時間が押してきてるので他の仏像は見られなかった。

⑩ 十一月十八日十一時二十分に収蔵庫着。受付で入館証、パンフレット、シューズカバーを貰う。私を含めた四名は僧侶の案内で湿度、二酸化炭素濃度をCPU計測され入館した。

「パンフレットには昭和十年（一九三五）便利堂撮影で彩色の

焼損前金堂壁画が載っていた。七世紀末に建立されたとみられる金堂内部は同時代の長安や洛陽のような壮大かつ厳粛な絵画である。千三百年後の現在まで残された至宝である。」

焼損壁画を目の当りに見た。黒白の空気の中にいる、正に水墨画の柱と壁の中に寡黙に佇んでいる人物になったかのようにであった。四面の大壁は高さ約三・一米、幅約二・六米あり、釈迦如来などの仏国土の様子又小壁は同、幅約一・五米の八面に菩薩が一体づつ描かれていた。

僧侶に尋ねた。「壁が無い六か所は？」「扉が有った所です」
十分は疾く間に過ぎた。館を出た。アンケートへは「タイムカプセル」と書き渡した。

出 火 前 後

● 昭和大修理（昭和九年）開始も、昭和二十年五月に金堂の解体が始まった。釈迦三尊像などの金堂の仏像は大講堂等へ遷した。上層部は解体した。天人の小壁画も抜き取った。初層の掩躰骨組建設中八月十五日終戦となった。

昭和二十二年から金堂壁画模写も再開している。

● 昭和二十四年一月二十六日（水）快晴、気温三度
早朝六時□分サイレン鳴る 模写中の画家の電気座布団のスイッチの切り忘れ、漏電説、放火説等原因不明であった。

● 火災見舞への礼状の一例 佐伯定胤貫主、外観は何の異常も無く、内陣の柱を取替える程度。しかし壁の焼損は痛惜の感に耐え申さず候、云云

● ごあいさつ 法隆寺管長 古谷正覚

二〇一九年の中間報告で一般公開の方針を示し検討を進めていきます。本日は先立ち見学していただきます。一層のご協力をお願い申し上げます。



附（つけどり）

● 斑鳩町は昭和二十二年に竜田町、法隆寺村、富郷村の三ヶ町村の合併に始まる。

● 古今一陽集（一八三六）^{いかるが} 鶺鴒という鳥に由来

● 和名類聚集（九三五）大和国平群郡の郷名に那珂、平群、夜麻、坂門、額田、飽波（浪）とあり、斑鳩という郷名はない。

● 書紀、推古天皇十四年条補注に、寺の所在地名で斑鳩寺、伊河留我寺、法号により法隆寺、法隆寺学問寺とある。

● 書紀、推古天皇二十九年（六二二）二月五日
厩戸豊聡耳皇子命 斑鳩宮に薨りましぬ。

● 釈迦三尊光背銘 法興元三十一年十二月鬼前太后崩す 明年（六二二）二月二十一日王后即世す。

翌年二月二十二日法皇登避す。云云 使司馬・鞍首止利仏師、造る。
参考 各社寺の案内 書紀（日本書紀）

大宰府から斑鳩へ 著者 米田良三

再現 法隆寺壁画 NHK取材班

法隆寺学のススめ 著者 高田良信

創作

サリー物語 第二章 君の名は

原明朝会 長坂 幸夫

動物好きのお父さんとお母さんとの生活が始まり一応私も落ち着きを取り戻した。お父さんは閑があれば私を膝の上に抱いて頭をなでたり体をさすってくれた。そんなある時、私はお父さんの膝に抱かれながら耳を澄ませると、お父さんとお母さんは私の名前のことを話しているようであった。

「何かいい名前はないかな」

「そうね、名前がないとこの子も可哀想そうね」

私には以前の家で呼ばれていた「マミー」という素敵な名前があったが、悲しいかな私の言語能力ではお父さんとお母さんに教えることが出来なかった。

私はお父さんの顔を見つめながら

「私の名はマミーですよと言ってみたがお父さんには分かる筈もなかった。

さて、一九九八年の七月はサッカーフランスワールドカップ最終段階に入って世界中が沸き返っていた。日本も代表が初出場したこともありサッカーの話題で燃え上がっていた。

長坂家も大のサッカー好きで、お父さんとお母さんは日本チームの応援にわざわざフランスまで出かけるほどの熱の入れようであった。茶の間のテレビは一日中サッカーの試合を放送していた。中

でも開催国フランスの大活躍で中心選手のジダンが大人気でアナウンサーはジダンの名を繰り返して叫んでいた。

この日もお父さんはテレビを見ていたのであるが、突然、そうだこの子の名はジダンがいいと叫ぶように言った。フランスワールドカップを記念してこれが一番いいというのだ。

お母さんも「ジダン、それはいい名ですね」と相づちをうった。

私は二人のその会話を聞いて、

「冗談じゃない、私は女の子、マミーという素敵なお名前があるんですよ」とつぶやきながらお父さんの顔を見上げたが、お父さんに通じる筈もなかった。

お父さんはジダンと言う名に得意げであったが、真一さんに相談してからということになった。私は真一さんなら、もっと素敵なお名前を考えてくれるに違いないとほっと胸をなで下ろした。

真一さんは、その後の私のことが心配になったのか次の土曜日の夕方に帰ってきてくれた。

玄関のドアが開く音がして「ただいま」という声があった。私はお父さんの膝の上から飛び出し声のした玄関の方へ走った。そして靴をぬいで上がるようにする真一さんに飛びついた。真一さんは両手を差し出ししっかりと私を抱き上げてくれた。

「どうした、元気だね」

私は真一さんの肩口に顔を寄せ真一さんのあごをなめ尽くすようになめた。

お父さんは

「やっぱり真一が一番だな、自分を救ってくれた命の恩人を忘れないんだね、たいしたもんだ」

とその光景を見つめていた。床に降ろされると私は真一さんの足下で絡むようにまつわりついて離れなかった。

さて、私のネーミングのことである。

お父さんは真一さんとコー

ヒーを飲みながら私のその後様子を話していた。まだ私には名前がないが、と相談を始めた。お父さんはジダンはどうかねと先日のお案を切り出したのである。それを聞いて真一さんは

「お父さん、この子は女の子ですよ、ジダンでは可哀想ですよ」私は真一さんは流石だな、私の心を知っているなと嬉しくなった。

「それでは何かいい名前はあるかね」真一さんはしばし沈黙して考えを巡らしているようであった。

「そうですね、何か今風の名前がいいですね」やがて、真一さんは思いついたようすで。

「サリーはどうですか、子どもの頃読んだ絵本にあった少女の名前ですけれど」

お父さんとお母さんは直ぐにそれはいい、サリーにしようと呼成してくれた。

この時、私の名前はサリーと命名されたのである。そして、この後、私の名は近所に広く知れ渡り皆さんから「サリーちゃん」と呼ばれ愛される存在になったのである。



「食べ物について思うこと」

沢松親和会 市川 幸子

小学生の孫と「いのちをいただく」という絵本を読みました。みんなが食べる牛肉にするため、牛を解く（屠殺）仕事をしている父親と、その息子しのぶ君の話です。父親は、牛を解く際、牛たちと目が合ってしまった、その度に、この仕事が嫌で、辞めたいと思っていました。息子のしのぶ君も、父親の仕事をカッコ悪いと違って、他の人たちに知られたくないと思っていました。

そんなしのぶ君に、担任の先生はお父さんの仕事について、次のように説明してくれました。

「もし、牛を肉にする仕事をする人がいなかったら、誰も牛肉を食べることが出来ないんだよ。だから、しのぶ君のお父さんは、みんなのために大切な仕事をしているんだよ」

先生の言葉でしのぶ君は「お父さんは、大勢の人のために大切な仕事をしているんだ」と気づかされます。そして、お父さんに、

「お父さんは、大勢の人のために、大事な仕事をしているんだよね」と言います。しのぶ君の言葉を聞いたお父さんは、もう少し仕事を続けようと思いました。そして、牛たちを解く際、出来るだけ牛たちが苦しまないように解いてあげようと思うのでした。

この絵本から、改めて私たちは、様々な生き物の命をいただいで生きているのだと考えさせられました。「いただきます」という言葉は、自分が生きるために、生き物の命をいただく事からの言葉であると知り、私たちの命を繋ぐための食べ物を、無駄には申し

訳ないと痛感しました。

しかし、今の日本は、飽食の時代と言われて久しく、「食品ロス」が大きな問題となっています。まだ食べられるのに廃棄してしまう食品が、年間六百万トンもあり、その内の三三八万トンが食べ残しとの事です。

近年、温暖化による異常気象により、世界各地で大雨や干ばつが発生し、食べ物がなく餓死する人々も少なくない状況の中、日本の食品ロスの量は、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた食糧支援量（二〇一九年は年間四二〇万トン）の一・四倍に相当するそうです。

食糧自給率が低く、多くの食品を輸入に頼っている日本において、国民一人当たり、お茶碗一杯分が毎日捨てられている状況との事です。本当に「もったいない」ですね。

ただ、私自身も、冷蔵庫の奥から、賞味期限の大大過ぎた食べ物が出てくる事が度々あり、「もったいない」という思いから、反省ばかりしています。

また、高齢者の学びの場である勸学院の授業で、天保の大飢饉と郡内一揆について学びました。

今から百六十年ほど前のこと、天候不順が続き、大雨のため洪水や冷害などにより、作物が穫れず、郡内の人口約六万人の内、餓死者が一万八千人も出たそうです。

そこで、困窮した人々は、米を求めて一揆を起こしました。一揆の頭領となったのは、犬目宿の兵助と大月下和田の武七（治左衛門）という人たちで、甲州街道沿いの二十二の村の農民たちと、甲府盆地東部の米穀商や豪商を襲撃し、蔵を打ち壊し米を強奪しました。

一揆は、大罪であったにも関わらず、困窮する人々のため、命を

懸けて米穀商や豪商を襲撃し、米を強奪せざるを得なかった兵助さんや、武七さんは、今の日本の食品ロス問題をどのように思うだろうかと、考えさせられました。

授業の中で、一揆の頭領であった、二人の墓を訪れることが出来ました。

兵助さんの墓は、犬目地区の集落や富士山を望む場所にあり、兵助さんを慕う人々の思いが感じられました。

また、武七（治左衛門）さんの墓は、当時、罪人と言うことで、葛野川沿いの木立の中にひっそりと葬られたそうです。その後、大月市により、川沿いの陽の当たる場所に碑が建てられました。墓を訪れた後、こんな短歌を詠んでみました。

(困窮の 民救わんと 兵助の
命を懸けた 郡内一揆)
(命懸け 一揆いし 頭領武七
今の我らに 何を語らん)

「歴史に学ぶ」という言葉がありますが、太古の昔から今日まで、人々は生きるため、食べ物を求めて、言葉では言い表せない程の苦勞をしてきた事と思います。
そんな、先人たちの苦勞を無駄にせず、もつともつと、一人一人が、食べ物の大切さについて考え、食品ロスの削減に努力す

「せいだのたまじ」のうた

作詞：市川幸子
作曲：市川幸子



- 1. コロコロちっちゃなじゃが いも
- 2. コロコロちっちゃなじゃが いも



ちっちゃくたって へいきだよ だってほーら へんしんだ
ちっちゃくたって おいしいよ だからほーら めしあがれ



あぶらで いためて おみそであじつけ せいだ の たまじ
ちよーうじゅしょくだよ たべるとげんきに せいだ の たまじ

べきではないのかと思いましたが。
そして、私自身、生き物の命を頂いて生きていられる事から「いただきます」と「もったいない」の思いを常に心に留めて、生活しなければと思います。

*上野原市の郷土料理である「せいだのたまじ」も、当時の人々の「もったいない」という思いから出来た料理との事です。
「せいだのたまじの歌」を作ってみました。

「せいだのたまじ」の歌

一、コロコロちっちゃな ジャガイモ
ちっちゃくたって へいきだよ
だってほーら 変身だ
油でいためて お味噌で味付け
せいだのたまじ

二、コロコロちっちゃな ジャガイモ
ちっちゃくたって おいしいよ
だからほーら 召し上がれ
長寿食だよ 食べる元気に
せいだのたまじ

俳句

コモアシニアクラブ 廣井勝美

連山を置きて雲染む秋夕映

ひとひらの散りに遭遇柿紅葉

秋寒や住み慣れし地を友去りし

コモアシニアクラブ 佐藤 纓子

女湯に花見の自慢はじまりぬ

秋の夜老いてふたたび「赤毛のアン」

バス停の開いたドアから夏匂ふ

コモアシニアクラブ 長屋 勲

木枯らしに色玉揺れる菊飾り

秋の朝すずめ並んで尻をふる

冬支度植えるパンジー手に力

コモアシニアクラブ 今 友子

卒園日手を振る笑顔いと清か

夏の宵 暁あかときつくよ月夜 物思ふ

谷からの渡る涼風腰伸ばす

コモアシニアクラブ 金子久雄

露草の雄蕊くつきり虫を呼び

乙女子の蚊に刺されしか白き臍

エノコロもカヤツリグサも今盛り

コモアシニアクラブ 山本 婕子

植えもせず狭庭に茂る実紫蘇かな

雀来て実紫蘇つつきぬ五羽十羽

窓音に実紫蘇の雀飛び散りぬ

コモアシニアクラブ 鈴木 千年

流れ星その一瞬に夢託す

サキソホンジャズ音色や秋の夜

遠富士の曲線蒼し秋気澄む

新一青老会 土屋 澄子

溪流の音に蝸混じりけり
酒蔵さかぐらの雪の軒下杉の玉
祝いごとの又ひとつあり赤まんま
水引草結納の儀の近づきぬ
打ち揚げる度に澄みきる冬火花

新一青老会 安藤 美津江

柿たわわ陽差がにほう甲斐の経
天すべて占めんとしつついわし鯛雲
朱に染めて燃えるが如し紅葉山
流木の折り重なりて冬に入る
世はひとつマスクの顔が闊歩する

新一青老会 中村 悦子

さらさらと笹の葉ゆれて初音かな
里山に吹く風や少し春そこに
若き日を偲ばせて咲く寒牡丹
灰汁をふく味噌豆釜に香り立つ

沢松親和会 小俣 キヌ子

コロナ禍の収束願う梅雨の朝
友歌う長崎の鐘原爆忌
肩を病み夫に頼りて春炬燵
学生の足音続く花は葉に
せせらぎや鶯の声何処からか

沢松親和会 尾形 富美子

万緑やグラウンドゴルフから空元気
日は落ちて穂先に寝むる赤トンボ
枝豆の茹で加減良し酒進む
和菓子屋の前を横目に秋の暮
冬はやりごもり流行の過ぎたカーディガン

沢松親和会 芹川 洋子

桜葉が夏の終りを告げて散る
アユ釣りの姿遠のき秋を知る
コスモスがサヨナラ告げるさんぽ道
つくばいの水にうかんだ枯落葉
庭先のもみじ色づき秋深し

沢松親和会
尾形綾乃

二人だけの常に変わらぬ初の膳
北斎の「神奈川沖浪裏」初がつお
どの子にも大いなる空子供の日
下町の生活なつかしべつたら市
武蔵野の落葉に歩今たのし

八米泉会
山崎宣子

おぼつかぬ俳句拾ふ秋の夜
思ひ出が財産なりし誕生日
澄渡る空紅葉であかね雲
この時代心ろ寒々三密で
永病みの人を見舞へば庭の秋

甲東きずな会
和智千代子

そよぐ風コスモス揺らし過ぎにけり
音もなくパナグ飛んでる昼下がり
球を追う芝生の上や午後の陽に
雨あがり草取る後に種を蒔き
晴れ渡る遠山望めば一日暮れ

新井陽亀会
遠藤一子

八ツの裾桜の向う雪の駒
雨に濡れ南天の花たおやかに
日の沈む待ちて散歩の青嵐
添い続け早くも喜寿の栗実り
外は雪カミソリ鋏消毒す

甲東きずな会
戸田成子

千成をいまか、いまかと声かける
ゲートボール今日はあの人と顔をみせぬ
良き友が居ない我家は花ざかり
土を耕やす人達の、生命のびる強さかな



川柳

島田桂生会

大月 佐江子

コスモスと戯れている風の精

ツバメのヒナ声聴きたくて回り道

ふる里は母の愛情てんこもり

子も巣立ち身軽に出来るボランティア

夕暮れと渋々帰宅お茶の友

沢松親和会

小 俣 庄 三

イモリ君我が家狩り場に幾月も

二刀流歴史塗りかえ鼻の先

次くるか収まりつかぬ感染が

二十年元のもく網アフガンは

安倍の影見え隠れする新政権

本二亀寿の会

三 島 政 美

我が体 異状無き処は頭部のみ

只、内部ではなく、外部だけ

短歌

コモアシニアクラブ

田 中 醇 治

二番子の育つベランダつばつくめ人を信じて命託すか

陸奥の芭蕉が訪ねし山寺の階段きつく老いたるを知る

武田氏の滅びし城の丘に立つ冷たき風の吹き抜けるのみ

新一青老会

波多野 千江子

植木屋さん眺め透かして剪定す紅梅寒さに堪えて綻ぶ

コロナ騒ぎ郵便屋さんは塀越に印鑑押して荷物手渡す

オリンピック高校野球と釘付けの夫はベット椅子替りにして

コロナ禍に道行く人も余り無く下校生が足早に帰る

西空を見事な夕焼薄れ行く時に帰る小鳥を見送る

詩

ある虫が

本一寿楽会
黒川良人

俺たちは極小な虫だが
視力と嗅覚は抜群で
微生物も細菌もウイルスも
透けて見えるんだ
どれも大好物で
体液を混ぜて舐めると
甘酸っぱい味がする
堪えられない御馳走なのさ
過去のペストやコレラ
サーズやマーズに対しても
俺たちの先祖が対応して来たんだ
今暴れている新型コロナは
特殊な武器を持つ
いささか厄介な奴らだが
俺たちの手に掛かれば
抑えるのは造作もないことさ

人間を助けてやってもいいが
あまり気乗りがしないんだ
人間もやられるだけのことを
やっているからな
本を正せばどっちもどっちだな
人間から要請があれば
出勤してもいいんだが
それには条件があるんだ
これからは自然を破壊しないと
約束してくれたら協力するよ
何しろこれまでずっと
生態系を壊し続けてきたからな
疫病が発生するのも
一つにはそこに原因があるんだ
わかったら連絡してくれ
木の根元や落葉の下にいるからさ
すぐにやっつけてやるよ

●●●元気やまなし10か条●●●

山梨県では、高齢者が元気でいきいきと活躍する「健康長寿やまなし」の実現に向けた取り組みを推進しています。
みんなで介護予防に取り組みましょう。

健康長寿の秘訣について、わかりやすくまとめた「元気やまなし10か条」を紹介するじゃんね！



げん 元気に長生きするには
(げんきやまなしけんこうちようじゆ)

き 気心の知れた人との交流で
社会的ネットワークは健康長寿の大切な条件です。

や 役割や興味をもって生き生きと
家庭や地域での役割や趣味を持つことで生きがいを持ちましょう。

ま 学んで脳に刺激を与え
メリハリのある生活で認知症の予防をしましょう。

な 何でも、いつでも、相談し
かかりつけ医や保健師などの専門家の支援で心と体の健康を保ちましょう。

し 食生活、ゆっくりしっかり食べること
伝統的な食文化を大切にして、食生活を楽しみましょう。

けん 煙はごめんと縁を切り
禁煙や受動喫煙の防止は生活習慣病予防に効果的です。

こ 転ばぬ先のリハビリテーション
転倒予防や安全対策で骨折などの事故を防ぎましょう。

う 運動を続けて貯筋を増やし
体力をつけて外に出ることで、閉じこもりを防止しましょう。

ちよう 地域のつながり大切に
みんなで支え合う、活気ある街づくりは健康長寿の基本です。

じゆ 自分の体をチェックして健康長寿を
めざしましょう
健診を受けて自分の健康状態を知り、適切な対応を取りましょう。

令和四年度「むろがや」

第四十号

投稿のお願い

(1) ひまわりクラブ事業活動、体験談、詩など

一人一作品、四〇〇字原稿用紙七枚以内

(2) 短歌、俳句、川柳 いずれか一人5点以内

◎作品と共に写真を提出される場合には1作品2点まで

◎応募作品・写真について校正等の都合で編集委員会に編集させて頂くこともあります。ご了承ください。

原稿締切 令和四年十一月末

提出先 各单位クラブ会長

むろがや 第三十九号

令和四年三月三十一日発行

発行者 上野原ひまわりクラブ

上野原市上野原三一六三

むろがや編集委員

杉本茂 秋山高齢者クラブ

市川幸子 沢松親和会

水越茂子 新井陽亀会

今友子 コモアシニアクラブ

長坂幸夫 原明朗会

井本克二 島田桂生会

長田勇一 新一青老会

事務局：志村光造事務局長・岡部真弥

印刷所 カヤママ印刷

老人健康十則

小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
欲 言 怒 煩 車 衣 食 糖 塩 肉
多 多 多 多 多 多 多 多 多 多
施 行 笑 眠 歩 陽 齟 果 酢 菜

「むろがや」について

上野原ひまわりクラブ会誌「むろがや」とは、岩波の『古語辞典』に「むろがやの生えている意か。また、地名『都留』にかかる枕詞か、また、地名か。『一の都留の堤の』（万三五四三東歌）とあり、古典文学全集巻四『万葉集』三五四三番に

室草の都留の堤の成りぬがに

見ろは言へども いまだ寝なくに

の一首があり、その大意は「都留川の堤の出来あがったように、二人の仲はすでに出来たかの如く、あの子は言うけれど、また共寝をしたわけではない」とあります。私は旧制中学国語の先生から「都留の枕詞」と教えられたことを、今も記憶しております。

* 「むろがや」の意味についての問い合わせを多数いただきました。降矢敬雄氏の原稿を再掲させていただきます。

みんながあいを育つる 安全・安心のまら うえのはら

上野原市社会福祉協議会 基本理念

